

近畿厚生局長 殿

公立大学法人 大阪市立大学

開設者名 理事長 西澤 良記

印

大阪市立大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3の規定に基づき、平成23年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

| | |
|--------|------|
| 研修医の人数 | 182人 |
|--------|------|

- (注) 前年度の研修医の実数を記入すること。
- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

| 職種 | 常勤 | 非常勤 | 合計 | 職種 | 員数 | 職種 | 員数 |
|-------|------|------|--------|---------|-----|------------|------|
| 医師 | 481人 | 112人 | 593.0人 | 看護補助者 | 60人 | 診療エックス線技師 | 人 |
| 歯科医師 | 人 | 人 | 人 | 理学療法士 | 11人 | 臨床検査技師 | 72人 |
| 薬剤師 | 36人 | 10人 | 46.0人 | 作業療法士 | 4人 | 臨床衛生検査技師 | 人 |
| 保健師 | 人 | 人 | 人 | 視能訓練士 | 7人 | その他 | 人 |
| 助産師 | 30人 | 0人 | 30.0人 | 義肢装具士 | 人 | あん摩マッサージ指庄 | 人 |
| 看護師 | 805人 | 70人 | 875.0人 | 臨床工学技士 | 12人 | 医療社会事業従事者 | 人 |
| 准看護師 | 1人 | 8人 | 9.0人 | 栄養士 | 8人 | その他の技術員 | 6人 |
| 歯科衛生士 | 人 | 人 | 人 | 歯科技工士 | 人 | 事務職員 | 137人 |
| 管理栄養士 | 9人 | 1人 | 10.0人 | 診療放射線技師 | 53人 | その他の職員 | 241人 |

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数
 歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

| | 歯科等以外 | 歯科等 | 合計 |
|--------------|-----------|------|----------|
| 1日当たり平均入院患者数 | 781.0人 | 0.0人 | 781.0人 |
| 1日当たり平均外来患者数 | 2,055.2人 | 0.0人 | 2,055.2人 |
| 1日当たり平均調剤数 | 1,268.00剤 | | |

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者数延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計を暦日で除した数)を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

近畿厚生局長
 第1003号
 第183号

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

| 先進医療の種類 | 取扱患者数 |
|---------------------------------|-------|
| 骨髄細胞移植による血管新生療法 | 0人 |
| 経頸静脈肝内門脈大循環短絡術 | 0人 |
| 末梢血単核球移植による血管再生治療 | 3人 |
| 培養細胞によるライソゾーム病の診断 | 1人 |
| フェニルケトン尿症の遺伝子診断 | 0人 |
| 多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術 | 12人 |
| IL28Bの遺伝子診断によるインターフェロン治療効果の予測評価 | 1人 |
| マイクロ波子宮内膜アブレーション | 2人 |
| 内視鏡的大腸粘膜下層剥離術 | 40人 |
| 超音波骨折治療法 | 0人 |

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

| 先進医療の種類 | 取扱患者数 |
|--------------------------------------|-------|
| 化学療法に伴うカフェイン併用療法 | 142人 |
| 経皮的肺がんラジオ波焼灼療法 | 0人 |
| 腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法 | 0人 |
| 骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼熱療法(転移性骨腫瘍・類骨腫) | 0人 |
| | |

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

| | | | |
|--|---|-------|----|
| 医療技術名 | 難治性膠原病患者に対する細胞標的治療 | 取扱患者数 | 0人 |
| 当該医療技術の概要 既存の治療に反応しない難治性膠原病患者に対し、点滴治療。 | | | |
| 医療技術名 | サンドスタチン(オクトレオチド)の筋肉注射・皮下注射 | 取扱患者数 | 0人 |
| 当該医療技術の概要 特発性偽性腸閉塞に伴う腹部症状について、サンドスタチン50 μ gを6時間おきに皮下注射、またはサンドスタチンLAR20mgもしくは30mgを1ヶ月に1回筋肉注射をすることにより、腹部症状が改善し経口摂取が可能になったという報告がある。 | | | |
| 医療技術名 | クローン病以外の炎症性腸疾患に対するレキケード(インブリキシマブ)の使用 | 取扱患者数 | 0人 |
| 当該医療技術の概要 クローン病以外の炎症性腸疾患(ペーチェット病、潰瘍性大腸炎)について、レキケード5mg/kg/回を0, 2, 6週に投与(点滴)有効であれば8週間隔で維持投与することにより改善が期待できる。 | | | |
| 医療技術名 | ヘリコバクター・ピロリー次及び二次除菌療法不成功例に対する三次除菌療法 | 取扱患者数 | 4人 |
| 当該医療技術の概要 ヘリコバクター・ピロリ感染を伴う胃・十二指腸潰瘍と診断され、一次及び二次除菌療法を受けたにもかかわらず除菌不成功と判断された症例にパリエット10mg・サワシリン750mg・クラビット300mgを1日2回10日間服用する。 | | | |
| 医療技術名 | 内視鏡的粘膜下層剥離術時の鎮静におけるプロポフォール | 取扱患者数 | 0人 |
| 当該医療技術の概要 全身麻酔の導入・維持及び集中治療における人工呼吸中の鎮静を目的として食道表在癌・早期胃がんに対する内視鏡的粘膜下層剥離術時に用いる。 | | | |
| 医療技術名 | 多剤耐性B型肝炎ウイルスに対するテノフォビル投与の試み | 取扱患者数 | 1人 |
| 当該医療技術の概要 現在保険適応である薬剤に耐性を示すB型肝炎ウイルス感染例を対象とし、ピリアード1錠を1日1回1年間継続服用をする。 | | | |
| 医療技術名 | 胆道癌に対するシスプラチンとゲムシタピンの併用療法 | 取扱患者数 | 1人 |
| 当該医療技術の概要 手術不能胆道癌患者に対してシスプラチンを25mg/m ² の用量で保険承認の1000mg/m ² に併用して点滴静注する。2投1休3週間を1コースとし、効果を認める限り投与を繰り返す。 | | | |
| 医療技術名 | 同種血幹細胞移植後の急性GVHDの初期治療としてのミコフェノール酸モフェチルの有効性の検索 | 取扱患者数 | 7人 |
| 当該医療技術の概要 急性移植片対宿主病(GVHD) 造血器疾患に対して、同種造血幹細胞移植を受け、grade II以上の急性GVHDを発症した患者。組織学的あるいは臨床症状よりgrade II以上の急性GVHDが発症したと診断された後、セルセプト1.5g/日(体重40kg以上60kg未満の患者)あるいは2.0g/日(体重60kg以上80kg未満の患者)の内服を開始する。一日投与量を12時間ごとに内服する。 | | | |
| 医療技術名 | ガンシクロビル抵抗性サイトメガロウイルス感染症に対するホスカルネットの有効性の検討 | 取扱患者数 | 0人 |
| 当該医療技術の概要 ガンシクロビル(デノシン)に抵抗性の、同種移植後患者でのサイトメガロウイルス感染症。 ガンシクロビルの治療によっても改善しない、サイトメガロウイルス感染症患者に対して、ホスカルネットナトリウム水和物として1回体重1kgあたり90mgを2時間以上かけて1日1回点滴静注する | | | |
| 医療技術名 | 骨髄異形成症候群(MDS)に伴う治療抵抗性特発性血小板減少性紫斑病(治療抵抗性ITP)に対するリツキシマブ治療 | 取扱患者数 | 1人 |

| | | | |
|--|--|-------|-----|
| <p>当該医療技術の概要</p> <p>治療抵抗性特発性血小板減少性紫斑病</p> <p>外来および入院にてリツキシマブ375mg/m² 点滴静注 週に1回投与 4週間 計4回行う。</p> | | | |
| 医療技術名 | 肝中心静脈閉塞症 (VOD)/静脈閉塞性肝疾患 (SOS) に対するトロンボモジュリンの有効性と安全性の検討 | 取扱患者数 | 0人 |
| <p>当該医療技術の概要</p> <p>播種性血管内凝固症候群</p> <p>治療抵抗性の肝中心静脈閉塞症 (VOD)/静脈閉塞性肝疾患 (SOS) に対してリコモジュリンを点滴投与</p> | | | |
| 医療技術名 | 同種造血幹細胞移植後の拒絶予防のためのヘントスタチン併用ドナーリンパ球輸注 (DLI) | 取扱患者数 | 0人 |
| <p>当該医療技術の概要</p> <p>成人T細胞性白血病</p> <p>同種造血幹細胞移植後、T細胞ドナーキルリズムの低下を認め、重症再生不良性貧血再発を来し、移植片拒絶の危険性の高い症例に対して、免疫抑制剤の変更やドナーリンパ球輸注 (DLI) 単独療法では十分な効果が認められない症例に対し、免疫抑制効果の強いヘントスタチン (コホロン) 併用のドナーリンパ球輸注 (DLI) を施行し、その効果と安全性を評価する。</p> | | | |
| 医療技術名 | 顆粒球輸注ドナーに対する顆粒球採取 | 取扱患者数 | 1人 |
| <p>当該医療技術の概要</p> <p>顆粒球輸注ドナー</p> <p>より多くの顆粒球 (好中球) を採取するため、採取前にドナーに顆粒球コロニー刺激因子 G-CSF (ノイトロジン注) を皮下注射し、ステロイド (デキサメタゾン) を内服してもらう。また、顆粒球をより効率よく採取するためサリンヘスを点滴し、採取する。採取時には血液が固まらないようにクエン酸を使用するが、その際の副作用を防ぐためにカルチコール注を点滴する。(現在わが国においては、同種末梢血幹細胞移植の健康保険適用は健常な「血縁ドナー」に G-CSF を投与して末梢血幹細胞を採取する場合に限られている。一方、顆粒球採取を目的として健常人に G-CSF を投与することは、現時点では健康保険適用とされていない。)</p> | | | |
| 医療技術名 | CIDP に対する免疫抑制剤 (ネオール) を用いた治療 | 取扱患者数 | 1人 |
| <p>当該医療技術の概要</p> <p>CIDP (Chronic inflammatory demyelinating polyradiculoneuropathy) 通常の治療に反応の乏しい患者</p> <p>ネオール 50mg・10mg を 1年間、病棟及び外来で内服もしくは点滴</p> | | | |
| 医療技術名 | MIGB 心筋シンチを用いた認知症患者の鑑別診断 | 取扱患者数 | 6人 |
| <p>当該医療技術の概要</p> <p>認知症</p> <p>核医学検査室にて患者にミオMIGB-I 123 注射液を静注後、ガンマカメラにて撮影</p> | | | |
| 医療技術名 | ブドウ糖 PET による認知症診断 | 取扱患者数 | 0人 |
| <p>当該医療技術の概要</p> <p>認知症</p> <p>FDG スキャンを静脈注射後、PET カメラにて撮影を行う。</p> | | | |
| 医療技術名 | 難治性ネフローゼに対するリツキサニ投与 | 取扱患者数 | 2人 |
| <p>当該医療技術の概要</p> <p>難治性ネフローゼ症候群</p> <p>入院中の患者に本薬剤を 1回点滴静注する。最初の 1時間は 25mg/h の速度で点滴静注を開始し、患者の状態を十分観察しながら、その後注入速度を 100mg/h にあげて 1時間点滴静注し、更にその後は 200mg/h まで速度をあげる。</p> | | | |
| 医療技術名 | 皮膚悪性腫瘍におけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索 | 取扱患者数 | 9人 |
| <p>当該医療技術の概要</p> <p>悪性黒色腫を含む皮膚悪性腫瘍に対して、手術前日あるいは手術当日午前中に、RI 室で病巣周囲を 4分割した部位に Tc 製剤 1mCi を皮下注射する。RI 室にてガンマカメラで撮影し集積を認めた部位にマーキングを行う。</p> <p>手術室においては、ガンマプローブを用いて集積部分を同定。パテントブルーバイオレット 2.5% 1ml を併用して、センチネルリンパ節の摘出を行う。</p> | | | |
| 医療技術名 | 悪性黒色腫に対する腫瘍抗原ペプチドを用いた経皮免疫療法 | 取扱患者数 | 10人 |
| <p>当該医療技術の概要</p> | | | |

| | | | |
|---|-----------------------------------|-------|----|
| 悪性黒色腫 (STAGE I ~ IV) | | | |
| ワクチン貼付部位の皮膚角質を剥離する。同部位にワクチンを貼付する。この手技を月1回で10回繰り返す。 | | | |
| 医療技術名 | 皮膚血管肉腫に対するSorafenib治療 | 取扱患者数 | 1人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 皮膚血管肉腫 ネクサパール錠を1回400mg 1日2回を連日内服投与する。28日を1コースとする。 | | | |
| 医療技術名 | 胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法 | 取扱患者数 | 9人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 高齢による低肺機能や過去の開胸術による癒着などで、外科的切除が困難な肺癌症例を対象とする、病変径3cm以下は根治を、それ以上では体積減少を目指す。 局所麻酔後、CTガイド下で電極針を経皮的に刺入し、標的病変に命中したことをCTで確認し、ラジオ波の通電を開始する。焼灼が完了した時点で電極針を抜去し、手技を終了する。CTで観察を行いながら実施することにより、局所のみを正確に治療することが可能で1結節の治療時間は1~2時間程度となり入院期間は7~10日である。 | | | |
| 医療技術名 | 骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法 | 取扱患者数 | 2人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 既存の治療方による制御が困難な悪性の骨腫瘍、または類骨骨腫瘍症例を対象とし、体積減少や疼痛軽減による症状の緩和を目指す治療法である。 局所麻酔後、CTガイド下で経皮的(必要に応じて手術室で全身麻酔下にナビゲーションシステムによる直視下)に電極を刺入し標的病変に命中したことをCT(またはナビゲーション)で確認し、ラジオ波の通電を開始する。焼灼が完了した時点で電極針は抜去し手技を終了する。CTガイド(またはナビゲーションシステム)で観察を行いながら実施することにより、局所のみを正確に治療することが可能で1結節の治療時間は1~2時間程度である。 | | | |
| 医療技術名 | 腫瘍性骨病変および骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術 | 取扱患者数 | 0人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 悪性腫瘍の転移や骨粗鬆症による脊椎の圧迫骨折のため疼痛が強度で、日常生活に支障をきたしている症例を対象に疼痛緩和によるQOLの改善を目的に施行する。 局所麻酔後、CTやX線透視でモニターしながら経皮的に骨生検針を骨折した脊椎椎体に刺入する、次いで少量(1-10ml程度)の骨セメントを注入し、適度な広がりになったことを画像で確認後、針を抜去して手技を終了する。 治療に要する時間は1時間程度である。また、入院期間はおよそ1週間である。 | | | |
| 医療技術名 | 腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法 | 取扱患者数 | 4人 |
| 該医療技術の概要 | | | |
| 腎機能温存や他疾患合併等で、外科的切除術が困難な悪性の腎腫瘍症例を対象とする。病変径は3cm以下は根治を、それ以上では体積減少を目指す。 局所麻酔後、CTガイド下で電極針を経皮的に刺入し、標的病変に命中したことをCTで確認し、ラジオ波の通電を開始する。焼灼が完了した時点で電極針を抜去し、手技を終了する。CTで観察を行いながら実施することにより、局所のみを正確に治療することが可能で1結節の治療時間は1~2時間程度となり入院期間は7~10日である。 | | | |
| 医療技術名 | 軟部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法 | 取扱患者数 | 0人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 侵襲の大きい外科的切除術を避けることが望まれ、かつ本療法による病変の縮小や疼痛の緩和が期待できる、転移等の軟部性悪性腫瘍を対象とする、患者選択に際しては、当該外科と協議して決定する。 局所麻酔後、CTガイド下で電極針を経皮的に刺入し、標的病変に命中したことをCTで確認し、ラジオ波の通電を開始する。焼灼が完了した時点で電極針を抜去し、手技を終了する。CTで観察を行いながら実施することにより、局所のみを正確に治療することが可能で1結節の治療時間は1~2時間程度となり入院期間は7~10日である。 | | | |
| 医療技術名 | 肝腫瘍に対する肝動脈塞栓術の補助療法としての肝ラッピング術 | 取扱患者数 | 0人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 肝周囲組織より栄養動脈が発達した肝細胞癌症例 | | | |

| | | | |
|---|--|-------|-----|
| 全身麻酔を施行し、開腹下あるいは腹腔鏡視下に肝腫瘍と周囲臓器を剥離し、栄養動脈を遮断、さらに同部にゴアテックスシートを留置することにより周囲臓器からの腫瘍への血管新生を遮断する。 | | | |
| 医療技術名 | 経皮経肝門脈枝塞栓術 | 取扱患者数 | 2人 |
| 当該医療技術の概要 葉切除以上の肝切除が必要な肝癌、胆道癌 血管造影室において、局所麻酔下超音波ガイド下に肝内門脈枝を穿刺し、門脈本幹内にカテーテルを挿入して直接門造影を行う。切除予定領域に流入する門脈枝を確認した後、同門脈枝内にバルーンカテーテルを挿入し、フィブリン糊を注入して同門脈を塞栓する。塞栓当日はベッド上安静とするが翌日から歩行や食事は再開する。この塞栓術から約2週間後、腹部CTなどにより充分な切除予定領域(塞栓領域)の萎縮と残存予定領域(非塞栓領域)の再生肥大が惹起されていることを確認した後、予定された肝切除を行う。 | | | |
| 医療技術名 | 脾腫瘍に対する腹腔鏡下脾体尾部切除術 | 取扱患者数 | 1人 |
| 当該医療技術の概要 脾体尾部に存在する比較的早期の脾癌および良性脾腫瘍 全身麻酔を施行し、完全腹腔鏡下および小開腹を併用した腹腔鏡補助下に脾体尾部切除術を施行する。 | | | |
| 医療技術名 | ステントグラフト内挿術(オープン型ステントグラフト内挿術、経皮的ステントグラフト内挿術) | 取扱患者数 | 0人 |
| 当該医療技術の概要 胸部大動脈瘤・解離性大動脈瘤 オープン型ステントグラフト内挿術は、脳分離体外循環下に弓部大動脈よりステントグラフトを遠位弓部～下行大動脈に内挿する。経皮的ステントグラフト内挿術は、経大腿動脈から逆行性に胸大動脈瘤内にステントグラフトを内挿する方法である。 | | | |
| 医療技術名 | 気管支充填術(Endobronchial Watanabe Spigotによる) | 取扱患者数 | 1人 |
| 当該医療技術の概要 難治性気胸・肺痿・有癭性膿胸 気管支鏡を用いてシリコン充填材EWSを気管支に詰めて気管支を閉塞し、その末梢からの気漏を止めて種々の病態を改善する内視鏡的治療法。 | | | |
| 医療技術名 | 頭蓋内頸動脈および椎骨動脈病変に対するステントを用いた血管形成術 | 取扱患者数 | 0人 |
| 当該医療技術の概要 頭蓋内頸動脈及び椎骨動脈狭窄病変で外科的治療が困難であると思われる症例についてバルーンカテーテルを用いた経皮的血管形成術にステント留置を併用する。 | | | |
| 医療技術名 | 細胞培養依託システムを使用した関節鏡下自己骨髄間葉系幹細胞移植による関節軟骨欠損修復 | 取扱患者数 | 0人 |
| 当該医療技術の概要 膝軟骨欠損に対して、自己骨髄間葉系幹細胞移植が可能な症例 腸骨より骨髄液を採取し、骨髄間葉系細胞を培養する。必要細胞数まで増やしたら、細胞浮遊液としてヒアルロン酸を加えて、関節鏡を使用し関節内に移植する。 | | | |
| 医療技術名 | 末梢神経絞扼性障害の除圧範囲決定における術中神経栄養血管造影及び電気生理学的検査の応用 | 取扱患者数 | 28人 |
| 当該医療技術の概要 末梢神経障害の患者 症状に関係のある部分のみを手術するため、手術中に電気生理学的検査を実施する。 | | | |
| 医療技術名 | 超音波検査による南部腫瘍の悪性度評価の有用性 | 取扱患者数 | 45人 |
| 当該医療技術の概要 軟部腫瘍患者で超音波検査上腫瘍内への血流が確認できる患者 ペルフルブタンマイクロバブルとして16 μ L(1パイアル)を添付の注射用水2mlで懸濁し、通常成人1回懸濁液として0.015ml/kgを静脈内投与する。 | | | |
| 医療技術名 | 腎移植領域におけるリツキシマブの応用 | 取扱患者数 | 4人 |
| 当該医療技術の概要 1) ABO血液型不適合腎移植における脾摘回避希望症例 2) ABO血液型不適合腎移植抗血液型抗体高値症例 3) 既存抗体陽性腎移植症例 4) 抗体関連拒絶反応発症症例 | | | |

| | | | |
|---|---|-------|------|
| 1) 2) 3) の場合、移植2週間前と移植当日にリツキシマブ150mg/m ² を点滴静注 4) 液性拒絶反応と診断し、ステロイド大量投与、血漿交換にても改善しない症例に対して150mg/m ² を単回投与する。 | | | |
| 医療技術名 | 腎移植領域における5回以上のplasmapheresis | 取扱患者数 | 2人 |
| 当該医療技術の概要 1) ABO血液型不適合腎移植における脾摘回避希望症例 2) ABO血液型不適合腎移植抗血液型抗体高値症例 3) 既存抗体陽性腎移植症例 4) 抗体関連拒絶反応発症症例 腎移植領域において脱感作目的でのplasmapheresisは術前4回保険適応で認められている。しかしながら 既存抗体陽性症例、ABO不適合腎移植血液型抗体価高値症では4回のplasmapheresisでは手術可能な 状態とならないことがある。そのため、手術可能な状態となるまで更にplasmapheresisが4-6回必要となることがある。 | | | |
| 医療技術名 | 腎移植領域における免疫グロブリン大量投与療法の応用 | 取扱患者数 | 0人 |
| 当該医療技術の概要 1) 既存抗体陽性腎移植症例 3) 抗体関連拒絶反応発症症例 2) ABO血液型不適合腎移植抗血液型抗体高値症例 1) 2) の場合、移植前に0.1~0.5g/kgを点滴静注射 5日間投与 3) 液性拒絶反応と診断し、ステロイド大量投与、血漿交換にても改善しない症例に対して0.5g/kgを5日間投与する | | | |
| 医療技術名 | 転移性尿管癌に対するFOLFIR1+Bevacizumab療法 | 取扱患者数 | 1人 |
| 当該医療技術の概要 尿管癌 FOLFIR1+Bevacizumabの化学療法を2週間に1回施行する。これを6ヵ月継続予定。 | | | |
| 医療技術名 | 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術 | 取扱患者数 | 3人 |
| 当該医療技術の概要 前立腺癌 日本Endourology and ESWL学会(泌尿器腹腔鏡学会)による施行基準に準じて施行。 | | | |
| 医療技術名 | 内因性尿道括約筋不全治療(先進医療2項の6 人工括約筋を用いた尿失禁手術) | 取扱患者数 | 2人 |
| 当該医療技術の概要 男性の内因性尿道括約筋不全を原因とする腹圧性尿失禁 人工括約筋を体内に植え込むことによって尿失禁の治療を行う。 | | | |
| 医療技術名 | ビタミンD直接注入療法 | 取扱患者数 | 0人 |
| 当該医療技術の概要 2次性副甲状腺機能亢進症 副甲状腺に活性型ビタミンDを局所注入することにより、副甲状腺内の活性型ビタミンD濃度を極めて高くすることによって、 甲状腺機能亢進症に見られる高カルシウム血症の発現を抑制する治療法。 | | | |
| 医療技術名 | 一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術(双胎間輸血症候群に罹患した一絨毛膜性双胎妊娠の症例(妊娠十六週から二十六週に限る)に係るものに限る) | 取扱患者数 | 0人 |
| 当該医療技術の概要 双胎間輸血症候群 双胎間輸血症候群に罹患した一絨毛膜性双胎妊娠(妊娠十六週以上二十六週以下のものに限る。) 双胎間輸血症候群は、一絨毛膜性双胎妊娠において、胎盤表面の双胎間血管吻合を介して一方の児(供血児)から 他方(受血児)へと血流がシフトすることにより、羊水過小・羊水過多を生じるもので、供血児・受血児とも死亡率が高くなり、 中枢神経障害を残す率も高い。これに対し、胎盤表面の吻合血管を内視鏡により同定し、レーザー光により焼灼して凝固させ、 原の予後を改善させる | | | |
| 医療技術名 | アバスチン硝子体内注射 | 取扱患者数 | 210人 |
| 当該医療技術の概要 加齢黄斑変性、近視性黄斑変性、糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症、ぶどう膜炎、新生血管黄斑症、網膜血管拡張症、 網膜血管腫、網膜血管炎、新生血管緑内障の諸症状について 手術室にて眼瞼および結膜囊を消毒後、顕微鏡下にてアバスチン0.05mlを30G針にて、硝子体内に注射する。 アバスチン点滴静注用(4ml)を0.2ml毎に分注して使用する。アバスチン点滴静注用4mlから約20本、 硝子体内用の注射液を作成することができる。 | | | |
| 医療技術名 | 組織プラスミノゲンアクチベータ(t-PA)網膜下注射 | 取扱患者数 | 0人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |

| | | | |
|--|-----------------------------|-------|-----|
| 加齢黄斑変性、近視性黄斑変性、新生血管黄斑症、網膜細動脈瘤 | | | |
| 手術室にて硝子体手術時に網膜下へt-PAを注入し、網膜下出血を洗浄する。 | | | |
| 医療技術名 | 浅在性皮膚悪性腫瘍に対するALAを用いた光線力学療法 | 取扱患者数 | 13人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 日光角化症、ボーエン病、乳房外Paget病、浅在性基底細胞癌 | | | |
| ALA含有軟膏を患部に密閉療法4時間後、患部にレーザー照射する。1ヶ月の間隔で治療を繰り返し、3回で1クールとする。 | | | |
| 医療技術名 | 重症急性膵炎に対する膵酵素阻害剤・抗生物質持続動注療法 | 取扱患者数 | 4人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 発症後1週間以内で、造影CTで膵壊死を認める患者や特に重症な患者(厚生労働省基準の重症度スコア9点以上等) | | | |
| 投与方法:膵壊死部を灌流する動脈から持続動注 | | | |
| 投与量 :フサン(50mg/バイアル)を1日4バイアル、11時間ずつ2回持続投与 | | | |
| およびチェナム(500mg/バイアル)を1日2~4バイアル、1時間ずつ2回持続投与 投与期間:約5日間 | | | |

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

| 疾患名 | 取扱患者数 | 疾患名 | 取扱患者数 |
|--|-------|---|-------|
| ・ベーチェット病 | 99人 | ・膿疱性乾癬 | 10人 |
| ・多発性硬化症 | 50人 | ・広範脊柱管狭窄症 | 12人 |
| ・重症筋無力症 | 46人 | ・原発性胆汁性肝硬変 | 96人 |
| ・全身性エリテマトーデス | 255人 | ・重症急性膵炎 | 10人 |
| ・スモン | 3人 | ・特発性大腿骨頭壊死症 | 77人 |
| ・再生不良性貧血 | 72人 | ・混合性結合組織病 | 34人 |
| ・サルコイドーシス | 67人 | ・原発性免疫不全症候群 | 2人 |
| ・筋萎縮性側索硬化症 | 12人 | ・特発性間質性肺炎 | 5人 |
| ・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎 | 132人 | ・網膜色素変性症 | 13人 |
| ・発性血小板減少性紫斑病 | 95人 | ・プリオン病 | 1人 |
| ・節性動脈周囲炎 | 31人 | ・肺動脈性肺高血圧症 | 2人 |
| ・潰瘍性大腸炎 | 330人 | ・神経線維腫症 | 39人 |
| ・大動脈炎症候群 | 22人 | ・亜急性硬化性全脳炎 | 0人 |
| ・ピュルガー病 | 24人 | ・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群 | 3人 |
| ・天疱瘡 | 23人 | ・慢性血栓性肺高血圧症 | 1人 |
| ・脊髄小脳変性症 | 32人 | ・ライソゾーム病 | 25人 |
| ・クローン病 | 273人 | ・副腎白質ジストロフィー | 1人 |
| ・難治性の肝炎のうち劇症肝炎 | 0人 | ・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体) | 1人 |
| ・悪性関節リウマチ | 11人 | ・脊髄性筋委縮症 | 2人 |
| ・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病) | 50人 | ・球脊髄性筋委縮症 | 2人 |
| ・アミロイドーシス | 3人 | ・慢性炎症性脱髄性多発神経炎 | 3人 |
| ・後縦靭帯骨化症 | 85人 | ・肥大型心筋症 | 0人 |
| ・ハンチントン病 | 1人 | ・拘束型心筋症 | 0人 |
| ・ヤマヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症) | 19人 | ・ミトコンドリア病 | 1人 |
| ・ウェグナー肉芽腫症 | 8人 | ・リンパ脈管筋腫症(LAM) | 0人 |
| ・特発性拡張型(うっ血型)心筋症 | 48人 | ・重症多形滲出性紅斑(急性期) | 0人 |
| ・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群) | 23人 | ・黄色靭帯骨化症 | 1人 |
| ・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型) | 4人 | ・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症) | 84人 |

(注)「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

| 施設基準等の種類 | 施設基準等の種類 |
|----------------------------------|--------------------------------------|
| マイクロ波子宮内膜アブレーション | 超音波骨折治療法 |
| 内視鏡的大腸粘膜下層剥離術 | 腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法 |
| 腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術 | 骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼熱療法(転移性骨腫瘍・類骨腫) |

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入す。

6 病理・臨床検査部門の概要

| | |
|-------------------------------------|--|
| 臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況 | 1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。 |
| 臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度 | 1週間に2回程度 |
| 部 検 の 状 況 | 部検症例数 44 例 / 部検率 14.80% |

(様式11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

| 研究題目 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元 | 備考 |
|--|-------|---------------------|-----------|-----|-----------------------------|
| 日本人糖尿病合併冠動脈疾患患者において積極的脂質低下・降圧療法の妥当性を問うランダム化臨床試験および観察研究 | 島田 健永 | 循環器内科 | 2,500,000 | 補 | 厚生労働科学研究費補助金(医療技術実用化総合研究事業) |
| 原発性肺腺癌の早期診断・治療的開発をめざした戦略的プロテオーム解析 | 西山 典利 | 呼吸器外科 | 1,560,000 | 補 | 基盤研究(C) |
| 喫煙による血管障害におけるニコチン依存度とトロンボスポンジンの関与と機序 | 竹本 恭彦 | 循環器内科 | 2,600,000 | 補 | 基盤研究(C) |
| 冠動脈MRI・MRAによる不安定プラークの診断、及び薬剤の冠動脈血管径への影響 | 江原 省一 | 循環器内科 | 2,470,000 | 補 | 基盤研究(C) |
| 小細胞肺癌に対する標準的治療法の確立に関する研究 | 工藤 新三 | 呼吸器内科 | 600,000 | 補 | がん臨床研究事業 |
| 心肺関連を基盤とする慢性閉塞性肺疾患の包括的治療戦略の確立 | 金澤 博 | 呼吸器内科 | 1,950,000 | 補 | 基盤研究(C) |
| インスリン非使用2型糖尿病患者におけるカーボカウント食事指導法の有効性の検討 | 福本 真也 | 生活習慣病・糖尿病センター(第2内科) | 1,700,000 | 補 | 基金 基盤研究(C) |
| PET分子イメージングを用いた慢性疲労症候群における脳内免疫異常の解明 | 中富 康仁 | 生活習慣病・糖尿病センター(第2内科) | 1,300,000 | 補 | 若手研究(B) |
| メタボリックシンドロームにおけるマクロファージサブセット制御機構の解明 | 元山 宏華 | 生活習慣病・糖尿病センター(第2内科) | 2,210,000 | 補 | 若手研究(B) |
| 肥満・動脈硬化における終末糖化産物受容体を介した炎症シグナルの意義 | 福本 真也 | 生活習慣病・糖尿病センター(第2内科) | 200,000 | 補 | 基盤研究(C) |
| 職場における客観的なメンタルヘルス評価法の確立 | 中富 康仁 | 代謝内分泌病態内科(第2内科) | 65,000 | 補 | 基盤研究(C) |
| 自律神経機能異常を伴い慢性的な疲労を訴える患者に対する客観的な疲労診断法の確立と慢性疲労診断指針の作成 | 稲葉 雅章 | 生活習慣病・糖尿病センター(第2内科) | 5,000,000 | 補 | 障害者対策総合研究事業 |
| 糖尿病性腎不全患者の血糖コントロールにおけるインスリンアナログ製剤の有効性—CGMSを用いた検討— | 森 克仁 | 生活習慣病・糖尿病センター(第2内科) | 500,000 | 補 | 腎疾患研究研究助成 |
| 肥満・動脈硬化における終末糖化産物受容体を介した炎症シグナルの意義 | 福本 真也 | 代謝内分泌病態内科(第2内科) | 260,000 | 補 | 基盤研究(C) |
| 糖尿病性腎症の新規バイオマーカー開発を目指した、単離系球体のプロテオーム解析 | 石村 栄治 | 腎臓内科(第2内科) | 2,210,000 | 補 | 基盤研究(C) |
| 分光特性を用いた消化管壁および癌の血管構造の3次元再構築技術の開発 | 町田 浩久 | 消化器内科(第3内科) | 1,300,000 | 補 | 基盤研究(C) |

小計16

1 研究費補助等の実績

| | | | | | |
|---|--------|-----------------|------------|---|--------------------------|
| ヘリコバクター・ピロリと気管支喘息の関連における免疫学的機序の関与 | 荒川 哲男 | 消化器内科 (第3内科) | 2,470,000 | 補 | 基盤研究(C) |
| アンチエイジング分子Klothoに着目した慢性胃炎および胃がんの病態解明 | 谷川 徹也 | 消化器内科 (第3内科) | 3,250,000 | 補 | 基盤研究(C) |
| 特殊光内視鏡と分子イメージング内視鏡による潰瘍性大腸炎合併癌サーベイランスの検討 | 渡辺 憲治 | 消化器内科 (第3内科) | 2,860,000 | 補 | 基盤研究(C) |
| サイトグロビンノックアウトマウスを用いた肝硬変・肝癌病態解析 | 河田 則文 | 肝胆膵内科 (第3内科) | 2,340,000 | 補 | 基盤研究B 日本学術振興会 |
| 肝細胞内微量B型肝炎ウイルスの病的意義に関する研究 | 田守 昭博 | 肝胆膵内科 (第3内科) | 2,210,000 | 補 | 日本学術振興会 基盤研究(C) |
| C型慢性肝炎の肝内マイクロRNA発現とIFN-リパビリンの治療効果 | 榎本 大 | 肝胆膵内科 (第3内科) | 1,300,000 | 補 | 基盤研究C 日本学術振興会 |
| 癌微小環境形成におけるサイトグロビン陽性あるいは陰性筋線維芽細胞の役割 | 河田 則文 | 肝胆膵内科 (第3内科) | 4,420,000 | 補 | 文部科学省 新学術領域研究 |
| 癌発生におけるサイトグロビン発現間葉系細胞の関与 | 河田 則文 | 肝胆膵内科 (第3内科) | 1,430,000 | 補 | 日本学術振興会 挑戦的萌芽研究 |
| 初発肝細胞癌に対する肝切除とラジオ波焼灼療法の有効性に関する多施設共同研究 | 河田 則文 | 肝胆膵内科 (第3内科) | 150,000 | 補 | がん臨床研究事業 |
| 血小板低値例へのインターフェロン治療法の確立を目指した基礎および臨床的研究 | 河田 則文 | 肝胆膵内科 (第3内科) | 800,000 | 補 | 肝炎等克服緊急対策 研究事業 |
| 脂肪肝炎を基盤とした肝発癌におけるマクロファージスカベンジャー受容体の役割 | 藤井 英樹 | 肝胆膵内科 (第3内科) | 2,600,000 | 補 | 若手研究(B) |
| 脂肪性肝炎における肝再性能、組織修復能の解明 | 河田 則文 | 肝胆膵内科 (第3内科) | 390,000 | 補 | 基盤研究(C) |
| 小児神経伝達物質病の診断基準の作成と新しい治療法の開発に関する研究 | 新宅 治夫 | 小児科・ 新生児科 | 13,000,000 | 補 | 厚生労働省 難治性疾患克服研究 事業 |
| 先天性ケトン体代謝異常症(HMG-CoA合成酵素欠損症、HMG-CoAリアーゼ欠損症、β-ケトチオラーゼ欠損症、SCOT欠損症)の発症形態と患者数の把握、診断治療指針に関する研究 | 新宅 治夫 | 小児科・ 新生児科 | 1,000,000 | 補 | 厚生労働省 難治性疾患克服研究 事業 |
| 先天代謝異常症の診断ネットワークを介した長期予後追跡システムの構築 | 新宅 治夫 | 小児科・ 新生児科 | 500,000 | 委 | 国立成育医療研究センター |
| 乳幼児のぜん息ハイリスク群を対象とした保健指導の実践および評価手法に関する調査研究 | 新宅 治夫 | 小児科・新生児 科 | 6,400,000 | 委 | 独立行政法人環境再生 保全機構 |
| タンデムマス等の新技術を導入した新しい新生児マススクリーニング体制の確立に関する研究 | 新宅 治夫 | 小児科・ 新生児科 | 200,000 | 補 | 厚生労働省 |
| ライソゾーム病(ファブリー病を含む)に関する調査研究 | 田中 あけみ | 小児科・ 新生児科 | 2,600,000 | 補 | 厚生労働省 難治性疾患克服研究 事業 |

小計18

1 研究費補助等の実績

| | | | | | |
|--|--------|----------------|------------|---|--------------------------|
| シトリン欠損症の実態調査と診断方法および治療法の開発 | 岡野 善行 | 小児科・ 新生児科 | 13,000,000 | 補 | 厚生労働省 難治性疾患克服研究 事業 |
| シトリン欠損症治療へのピルビン酸の応用 | 岡野 善行 | 小児科・ 新生児科 | 486,400 | 委 | 科学技術振興機構 |
| 小児神経伝達物質病の診断基準の作成と患者数の 実態調査に関する研究 | 服部 英司 | 小児科・ 新生児科 | 200,000 | 補 | 厚生労働省 難治性疾患克服研究 事業 |
| グルタマイト脱水素酵素異常症における高アンモニア血症 の病態解明と治療法の開発 | 岡野 善行 | 小児科・ 新生児科 | 1,300,000 | 補 | 基盤研究(C) |
| ライソゾーム病神経変性におけるオートファジー機能の解 明と誘導・阻害による治療研究 | 田中 あけみ | 小児科・ 新生児科 | 2,210,000 | 補 | 基盤研究(C) |
| 摂食障害におけるアジボサイドカイン、脳由来神経 栄養因子:短期予後のとの関連 | 永田 利彦 | 神経精神科 | 1,170,000 | 補 | 科学研究費補助金基 盤研究C |
| 高機能広汎性発達障害児における感覚異常 | 宮脇 大 | 神経精神科 | 1,820,000 | 補 | 科学研究費補助金 若 手研究B |
| 難治性疾患克服研究事業[白斑・白皮症の本邦にお ける診断基準及び治療指針の確立] | 深井 和吉 | 皮膚科 | 400,000 | 補 | 厚生労働科学 研究費補助金 |
| 難治性疾患克服研究事業[さまざまな類天疱瘡の疾 患群の抗原の詳細な解析と新しい検査法の開発に よる診断基準の作成] | 鶴田 大輔 | 皮膚科 | 0 | 補 | 厚生労働科学 研究費補助金 |
| 難治性疾患克服研究事業[家族性良性慢性天疱瘡 (Hailey-Hailey病)の診断基準作成とATP2C1遺伝子 解析に関する研究] | 鶴田 大輔 | 皮膚科 | 0 | 補 | 厚生労働科学 研究費補助金 |
| 角層カタラーゼ活性系に対する補材の作用メカニズムの 解明 | 小林 裕美 | 皮膚科 | 3,250,000 | 補 | 基盤研究(C) |
| 水疱性類天疱瘡発症初期メカニズムの解明 | 鶴田 大輔 | 皮膚科 | 1,170,000 | 補 | 基盤研究(C) |
| 表皮角化細胞での細胞-細胞接着と細胞-細胞外マトリク ス接着との動的相互作用の解明 | 立石 千晴 | 皮膚科 | 2,600,000 | 補 | 若手研究(B) |
| 高磁場MR装置による磁化率強調画像を応用した新しい 髄鞘イメージングの開発・応用 | 三木 幸雄 | 放射線科 | 3,120,000 | 補 | 基盤研究(B) |
| 脳磁図(MEG)を用いた非侵襲的脳虚血域画像化技術の 開発と臨床応用 | 坂本 真一 | 放射線科 | 650,000 | 補 | 基盤研究(C) |
| 部分的脾動脈塞栓術(PSE)を用いた肝臓再生～自家骨 髄幹細胞移植と関連して～ | 山本 晃 | 放射線科 | 1,820,000 | 補 | 若手研究(B) |
| ラジオ凝固療法+免疫賦活化因子局所注入併用により局 所制御と遠隔制御も可能か? | 大隈 智尚 | 放射線科 | 2,730,000 | 補 | 若手研究(B) |
| 進行肝細胞癌に対する、標準的肝動注化学療法の確立 に関する多施設共同研究 | 西田 典史 | 放射線科 | 65,000 | 補 | 基盤研究(C) |
| スキルス胃がん細胞株の樹立。浸潤・播種を制御す る分子/薬剤の検索 | 八代 正和 | 腫瘍外科 (第1外科) | 1,800,000 | 委 | 国立がん研究センター がん研究開発費 |

小計19

1 研究費補助等の実績

| | | | | | |
|--|--------|-------------------|-----------|---|----------------------------|
| 難治癌の増殖進展に関与する脂質系分子メカニズムの解明と阻害剤の開発 | 八代 正和 | 腫瘍外科 (第1外科) | 2,000,000 | 補 | 平成23年度新産業創生研究の研究費 |
| FGFR3阻害剤およびTGFβR阻害剤を用いたスキルス胃癌の分子標的治療 | 八代 正和 | 腫瘍外科 (第1外科) | 1,500,000 | 補 | がん研究振興財団 がん研究助成金 |
| HER2陽性乳がんに対する術前抗HER3抗体療法における効果予測マーカーの探索的研究 | 高島 勉 | 乳腺内分泌外科 (第1外科) | 500,000 | 委 | 国立がん研究センターがん研究開発費 |
| 消化器癌宿主の免疫寛容克服を目的とした樹状細胞刺激性抗癌剤のリンパ節局注とペプチドワクチン併用に関する検討 | 田中 浩明 | 消化器外科 (第1外科) | 3,000,000 | 補 | 公益財団法人武田化学振興財団 |
| 進行・再発癌に対する新規エピトープペプチドカクテル療法と標準化学療法の併用効果を検討する多施設共同第Ⅰ/Ⅱ相臨床試験 | 田中 浩明 | 消化器外科 (第1外科) | 1,200,000 | 補 | 難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業 |
| 大腸癌におけるオキサリプラチンの末梢神経障害に対する漢方薬:牛車腎気丸の有用性に関する多施設共同二重盲検ランダム化比較検証試験(臨床第Ⅲ相試験) | 野田 英児 | 腫瘍外科 (第1外科) | 100,000 | 委 | 厚生労働科学研究費補助金 医療技術実用化総合研究事業 |
| 低酸素微小環境における胃癌細胞の悪性形質獲得の機序解明と治療標的分子の探索 | 八代 正和 | 腫瘍外科 (第1外科) | 5,070,000 | 補 | 基盤研究(B) |
| スキルス胃癌の病態と治療抵抗性の克服—癌幹細胞を標的として— | 平川 弘聖 | 腫瘍外科 (第1外) | 5,200,000 | 補 | 基盤研究(B) |
| 甲状腺未分化癌細胞株の樹立と分子標的薬剤併用による抗癌剤耐性克服の基礎検討 | 小野田 尚佳 | 腫瘍外科 (第1外科) | 1,300,000 | 補 | 基盤研究(C) |
| ジフテリアトキシン融合蛋白とPSKの消化器癌に対するペプチドワクチン療法への応用 | 田中 浩明 | 腫瘍外科 (第1外科) | 1,430,000 | 補 | 基盤研究(C) |
| 甲状腺未分化癌細胞株の樹立と分子標的薬剤併用による抗癌剤耐性克服の基礎検討 | 小野田 尚佳 | 腫瘍外科 (第1外科) | 350,000 | 補 | 基盤研究(C) |
| 肝細胞癌のマイクロRNA解析による発癌メカニズムの解明と臨床応用 | 久保 正二 | 肝胆膵外科 (第2外科) | 1,690,000 | 補 | 文部科学省科学研究費 |
| 初発肝細胞癌に対する肝切除とラジオ波焼灼療法の有効性に関する多施設共同研究 | 久保 正二 | 肝胆膵外科 (第2外科) | 150,000 | 補 | 厚生労働科学研究費 |
| 糖尿病におけるストレス応答性UCP2発現低下による活性酸素産生亢進と対策法の確立 | 竹村 茂一 | 肝胆膵外科 (第2外科) | 130,000 | 補 | 基盤研究(C) |
| 脳神経外科手術用止血剤の開発に向けた組織接着性 | 大畑 建治 | 脳神経外科 | 2,860,000 | 補 | 独立行政法人日本学術振興会 基盤研究C |
| 低磁場MRIと脳磁図の同時測定による頭蓋内疾患の病態解明に関する基礎研究 | 露口 尚弘 | 脳神経外科 | 1,040,000 | 補 | 独立行政法人日本学術振興会 基盤研究C |
| 低磁場MRIと脳磁図の同時測定による頭蓋内疾患の病態解明に関する基礎研究 | 露口 尚弘 | 脳神経外科 | 300,000 | 補 | 基盤研究(C) |
| 特発性大腿骨頭壊死症の診断・治療・予防法の開発を目的とした全国学際的研究 | 中村 博亮 | 整形外科 | 1,200,000 | 補 | 厚生労働省科学研究費補助金長寿科学総合研究事業 |

1 研究費補助等の実績

| | | | | | |
|---|-------|------------|-----------|---|-----------------------------------|
| 骨粗鬆症椎体骨折に対する低侵襲治療法の開発 | 中村 博亮 | 整形外科 | 700,000 | 補 | 厚生労働省科学研究費補助金長寿科学総合研究事業 |
| 皮膚マーカナビゲーションを用いた骨軟部腫瘍切除法の確立 | 星 学 | 整形外科 | 1,530,000 | 委 | 研究成果展開事業(研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)) |
| 全く新しい概念の後方椎体間固定システムの開発-固定性、安全性、低侵襲性の達成- | 姜 良勲 | 整形外科 | 290,000 | 委 | 研究成果展開事業(研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)) |
| iPS細胞を用いたハイブリッド型人工神経による末梢神経欠損部の架橋実験 | 高松 聖仁 | 整形外科 | 1,300,000 | 補 | 基盤研究(C) |
| 大腸菌由来骨形成蛋白とコンピュータ支援技術を用いた骨欠損部再生修復システムの創生 | 岩城 啓好 | 整形外科 | 1,560,000 | 補 | 基盤研究(C) |
| 自家骨移植による局所的骨再生メカニズムの解明 | 中村 博亮 | 整形外科 | 1,430,000 | 補 | 基盤研究(C) |
| 性ホルモンの骨代謝への関与の解析、及びその組織修復への応用 | 箕田 行秀 | 整形外科 | 2,210,000 | 補 | 若手研究(B) |
| 黄色靭帯肥厚の進行予防による新しい腰部脊柱管狭窄症治療法の開発 | 江口 佳孝 | 整形外科 | 1,950,000 | 補 | 若手研究(B) |
| 末梢絞扼性障害における術中神経栄養血管造影を用いた神経内除症範囲の研究 | 岡田 充弘 | 整形外科 | 910,000 | 補 | 基盤研究(C) |
| BMPシグナル伝達系へのカテコラミンの促進効果(運動による骨形成促進メカニズム) | 鈴木 亨暢 | 整形外科 | 1,820,000 | 補 | 基盤研究(C) |
| 発生学的アプローチによる関節内構成体(靭帯、半月板)再建方法の開発 | 橋本 祐介 | 整形外科 | 1,950,000 | 補 | 若手研究(B) |
| 転倒時の骨折を防ぐ高齢者施設の床の安全性確保に関する実証的研究 | 池淵 充彦 | 整形外科 | 390,000 | 補 | 挑戦的萌芽研究 |
| ホームレス者の健康支援を通じた社会的包摂の推進に関する研究 | 中田 信昭 | 整形外科 | 26,000 | 補 | 基盤研究(C) |
| 関節炎症に及ぼす脂質サイトカインの影響 | 小池 達也 | リハビリテーション科 | 2,210,000 | 補 | 基盤研究(C) |
| 転移性腎癌に対する新規抗原をターゲットにしたペプチドワクチン療法 | 川嶋 秀紀 | 泌尿器科 | 3,000,000 | 委 | 独立行政法人科学技術振興機構 |
| 腎移植後urinary albumin excretion(UAE)の意義と治療戦略 | 内田 潤次 | 泌尿器科 | 1,000,000 | 補 | 財団法人大阪難病研究財団 |
| 3次性副甲状腺機能亢進症(Tertiary hyperparathyroidism: tHPT)と動脈硬化の関係の検討 | 長沼 俊秀 | 泌尿器科 | 300,000 | 補 | 平成23年度日本腎臓財団公募助成 |
| 前立腺肥大症(BPH)における経尿道的前立腺切除術(TUR-P)の腎機能への影響についての検討 | 長沼 俊秀 | 泌尿器科 | 300,000 | 補 | 平成23年度公益財団法人大阪腎臓バンク腎疾患研究助成金 |

1 研究費補助等の実績

| | | | | | |
|--|------------------|--------------|-----------|---|--------------------------|
| 前立腺がん発癌プロモーションにおける酸化ストレス関連遺伝子の役割と多型の解析 | 井口 太郎 | 泌尿器科 | 2,730,000 | 補 | 若手研究(B) |
| 視覚能力レベルに応じた「迷い点」による空間の分かりやすさ評価—居住福祉施設の場合 | 戒田 真由美 | 眼科 | 130,000 | 補 | 基盤研究(C) |
| ニコチンによる術後沈痛—脊髄後角インビボパッチクラブ法を用いた検討 | 森 隆 | 麻酔科 | 1,170,000 | 補 | 基盤研究(C) |
| 局所麻酔薬の抗炎症作用の解明—炎症性疼痛の治療への応用を目指して | 長谷 一郎 | 麻酔科 | 780,000 | 補 | 若手研究(B) |
| 局所麻酔薬の中樞神経作用の検討—脳波への影響および併用薬物による変化について | 田中 克明 | 麻酔科 | 1,170,000 | 補 | 若手研究(B) |
| 糖尿病性神経障害における下行性疼痛抑制系の脳内モノアミン動態の解明 | 舟尾 友晴 | 麻酔科 | 1,300,000 | 補 | 若手研究(B) |
| 脂肪乳剤による局所麻酔薬中毒治療メカニズムの解明—脳内薬物動態の観点から | 小田 裕 | 麻酔科 | 2,730,000 | 補 | 基盤研究(C) |
| 手術患者の酸化ストレス病態の解明と抗酸化治療による手術侵襲治療戦略の確立 | 土屋 正彦 | 麻酔科 | 2,600,000 | 補 | 基盤研究(C) |
| 造血幹細胞移植治療の合併症克服と有効率向上に関する研究 | 日野 雅之 | 血液内科・造血細胞移植科 | 2,340,000 | 補 | 科学研究費 基盤研究(C) |
| 非血縁者間同種末梢血幹細胞移植開始におけるドナーおよびレシピエントの安全性と成績向上に関する研究 (同種末梢血幹細胞移植を非血縁者間で行う場合等の医学・医療・社会的基盤に関する研究) | 日野 雅之 (分担研究者) | 血液内科・造血細胞移植科 | 400,000 | 補 | 厚生科研 免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業 |
| 造血幹細胞移植後の急性移植片対宿主病、非感染性肺合併症の予測、予防に関する研究 | 中前 博久 | 血液内科・造血細胞移植科 | 780,000 | 補 | 科学研究費 基盤研究(C) |
| 造血幹細胞移植の有効性と安全性向上のための薬剤のエビデンスの確立に関する研究 | 中前 博久 (分担研究者) | 血液内科・造血細胞移植科 | 1,000,000 | 補 | 厚生科研 がん臨床研究事業 |
| (受研)「分子イメージングによるタウ凝集阻害薬開発」 | 三木 隆己 | 老年内科・神経内科 | 5,000,000 | 委 | 文部科学省 |
| βアミロイドPETにおけるアミロイド陰性認知症患者の臨床的特徴に関する研究 | 嶋田 裕之 | 老年内科・神経内科 | 1,560,000 | 補 | 基盤研究(C) |
| アミロイドPET所見と神経心理学的検査に基づいた早期認知症患者背景疾患の分析 | 嶋田 裕之 | 老年内科・神経内科 | 130,000 | 補 | 基盤研究(C) |
| アミロイドPET所見と神経心理学的検査に基づいた早期認知症患者背景疾患の分析 | 安宅 鈴香 | 老年内科・神経内科 | 130,000 | 補 | 基盤研究(C) |
| 漢方剤「抑肝散」によるアルツハイマー病BPSD軽減効果の検証—プラセボ対照無作為化臨床第2相比較試験— | 嶋田 裕之 | 老年科・神経内科 | 600,000 | 補 | 認知症対策総合研究事業 |
| 門脈血行異常に関する調査研究 | 塩見 進 | 核医学科 | 600,000 | 補 | 厚生労働省特定疾患対策研究 |

小計18

1 研究費補助等の実績

| | | | | | |
|--|-------|----------|------------|---|-----------------|
| アミロイドイメージングを用いたアルツハイマー病の発症・進展予測法の実用化に関する研究 | 塩見 進 | 核医学科 | 1,300,000 | 補 | 厚生労働省長寿科学総合研究事業 |
| 浸潤性膵肝癌の早期診断のためのプロテオーム解析を用いたバイオマーカー検索 | 桑江 優子 | 病理部 | 2,210,000 | 補 | 基盤研究(C) |
| ヘミデスモソーム構成タンパクのリクルート及びリサイクルの解明 | 小澤 俊幸 | 形成外科 | 1,300,000 | 補 | 若手研究(B) |
| 救急電話相談事業による救急業務の効率化に関する研究 | 溝端 康光 | 救命救急センター | 12,500,000 | 委 | 総務省消防庁 |

小計4

合計111

国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

| 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|--|--|-------|-------|
| J Cardiol. 2012 Mar 6. (2012年3月) | Comparison of two-dimensional and real-time three-dimensional transesophageal echocardiography in the assessment of aortic valve area. | 葭山 稔 | 循環器内科 |
| Heart Vessels. 2012 Feb. 17. (2012年2月) | Typical coronary appearance of dilated cardiomyopathy versus left ventricular concentric hypertrophy: coronary volumes measured by multislice computed tomography. | 葭山 稔 | 循環器内科 |
| Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 2012 May;13(5):394-9. (2012年5月) | Hyperintense plaque identified by magnetic resonance tomography in patients with angina pectoris. | 葭山 稔 | 循環器内科 |
| J Cardiol. 2012 Mar;59(2):167-75. (2012年3月) | Non-obstructive low attenuation coronary plaque predicts three-year acute coronary syndrome events in patients with hypertension:multidetector computed tomographic study. | 葭山 稔 | 循環器内科 |
| Eur Heart J. 2012 Jan 12. (2012年1月) | Erythrocyte-rich thrombus aspirated from patients with ST-elevation myocardial infarction: association with oxidative stress and its impact on myocardial reperfusion. | 葭山 稔 | 循環器内科 |
| Circ J. 2012;76(2):301-2. (2012年2月) | Effect and safety of landiolol in patients with acute myocardial infarction undergoing primary percutaneous coronary intervention. | 葭山 稔 | 循環器内科 |
| Eur J Echocardiogr. 2011 Dec 30. (2011年12月) | Accurate measurement of mitral annular area by using single and biplane linear measurements: comparison of conventional methods with the three-dimensional planimetric method. | 葭山 稔 | 循環器内科 |
| Arterioscler Thromb Vasc Biol. 2011 Dec;31(12):2872-80. (2011年12月) | Passive exercise using whole-body periodic acceleration enhances blood supply to ischemic hindlimb. | 葭山 稔 | 循環器内科 |
| Circ J. 2011;75(11):2699-704. (2011年11月) | Prevalence and correlates of physiological valvular regurgitation in healthy subjects. | 葭山 稔 | 循環器内科 |
| Am J Cardiol. 2011 Dec 1;108(11):1665-8. (2011年12月) | Comparison of coronary microcirculation in female nurses after day-time versus night-time shifts. | 葭山 稔 | 循環器内科 |
| Hypertens Res. 2012 Jan;35(1):34-40. doi: 10.1038/hr.2011.139. (2012年1月) | The antifibrotic agent pirfenidone inhibits angiotensin II-induced cardiac hypertrophy in mice. | 葭山 稔 | 循環器内科 |
| JACC Cardiovasc Imaging. 2011 Aug;4(8):921. (2011年8月) | Pocket-sized echo for evaluation of mitral and tricuspid regurgitation. | 葭山 稔 | 循環器内科 |
| J Cardiol. 2011 Nov;58(3):266-77. (2011年11月) | Left atrial thrombus and prognosis after anticoagulation therapy in patients with atrial fibrillation. | 葭山 稔 | 循環器内科 |
| Am J Cardiol. 2011 Oct 1;108(7):1002-7. (2011年10月) | Relation of aortic arch complex plaques to risk of cerebral infarction in patients with aortic stenosis. | 葭山 稔 | 循環器内科 |
| Int J Cardiol. 2011 Jun 24. (2011年6月) | Parathyroid hormone and systolic blood pressure accelerate the progression of aortic valve stenosis in chronic hemodialysis patients. | 葭山 稔 | 循環器内科 |
| Hypertens Res. 2011 Sep;34(9):1004-10. doi: 10.1038/hr.2011.69. (2011年9月) | The clinical value of apex beat and electrocardiography for the detection of left ventricular hypertrophy from the standpoint of the distance factors from the heart to the chest wall: a multislice CT study. | 葭山 稔 | 循環器内科 |
| Heart Vessels. 2011 Nov;26(5):572-81. (2011年11月) | Utility of myocardial fractional flow reserve for prediction of restenosis following sirolimus-eluting stent implantation. | 葭山 稔 | 循環器内科 |
| Heart Vessels. 2011 Sep;26(5):487-94. (2011年9月) | Absence of left ventricular concentric hypertrophy: a prerequisite for zero coronary calcium score. | 葭山 稔 | 循環器内科 |

| | | | |
|---|--|------|---------------|
| Respiratory Medicine 105(4):519-525 (2011年4月) | Increased levels of HMGB-1 and endogenous secretory RAGE in induced sputum from asthmatic patients. | 平田一人 | 呼吸器内科 |
| Journal of Allergy Clinical Immunology 127(4):899-904 (2011年4月) | Potential roles of pentosidine in age-related and disease-related impairment of pulmonary functions in patients with asthma. | 金澤博 | 呼吸器内科 |
| Osaka City Medical Journal 57(1):21-29 (2011年6月) | Association of six-minute walk distance (6MWD) with resting pulmonary function in patients with chronic obstructive pulmonary disease (COPD). | 平田一人 | 呼吸器内科 |
| Respirology 16(5):862-868 (2011年7月) | Comparison of alveolar nitric oxide concentrations using two different methods for assessing small airways obstruction in asthma. | 平田一人 | 呼吸器内科 |
| International Journal of Cancer 129(6):1410-1416 (2011年9月) | Reaction of plasma hepatocyte growth factor levels in non-small cell lung cancer patients treated with EGFR-TKIs. | 平田一人 | 呼吸器内科 |
| Respiratory Medicine 105(12):1885-1890 (2011年12月) | Measurement of soluble perforin, a marker of CD8(+) T lymphocyte activation in epithelial lining fluid. | 平田一人 | 呼吸器内科 |
| Osaka City Medical Journal 57(2):59-66 (2011年12月) | Clinical outcome of amrubicin therapy according to the prior chemotherapy sensitivities of extensive small cell lung cancer. | 光岡茂樹 | 呼吸器内科 |
| J Atheroscler Thromb 18(10): 883-90 (2011年6月) | Comparison of the effect of cilostazol with aspirin on circulating endothelial progenitor cells and small-dense LDL cholesterol in diabetic patients with cerebral ischemia: a randomized controlled pilot trial | 稲葉雅章 | 生活習慣病・糖尿病センター |
| J Ren Nutr 22(1): 128-133 (2011年12月) | AGEs and cardiovascular diseases in patients with end-stage renal diseases | 稲葉雅章 | 生活習慣病・糖尿病センター |
| Recent Pat Endocr Metab Immune Drug Discov 5(2): 124-146 (2011年11月) | Fetuin-A: a multifunctional protein | 森 克仁 | 生活習慣病・糖尿病センター |
| Adv Clin Chem 56: 175-195 (2012年3月) | Fetuin-A and the cardiovascular system | 森 克仁 | 生活習慣病・糖尿病センター |
| Clin J Am Soc Nephrol 6(6): 1361-1367 (2011年5月) | Active vitamin D and acute respiratory infections in dialysis patients | 田原英樹 | 内分泌・骨・リウマチ内科 |
| Kidney Blood Press Res 34(6): 430-438 (2011年6月) | Decreased kidney function is a significant factor associated with silent cerebral infarction and periventricular hyperintensities | 石村栄治 | 腎臓内科 |
| Ther Apher Dial 16(2): 127-133 (2012年1月) | Elemental concentrations in scalp hair, nutritional status and health-related quality of life in hemodialysis patients | 石村栄治 | 腎臓内科 |
| Biol Trace Elem Res 143(2): 825-834 (2011年1月) | Trace elements in the hair of hemodialysis patients | 石村栄治 | 腎臓内科 |
| Nephrol Dial Transplant 27(5): 1889-1897 (2011年12月) | Proteome analysis of laser microdissected glomeruli from formalin-fixed paraffin-embedded kidneys of autopsies of diabetic patients: nephronectin is associated with the development of diabetic glomerulosclerosis | 石村栄治 | 腎臓内科 |
| J Atheroscler Thromb 19(3): 276-284 (2011年12月) | Association of endothelial and vascular smooth muscle dysfunction with cardiovascular risk factors, vascular complications, and subclinical carotid atherosclerosis in type 2 diabetic patients | 絵本正憲 | 生活習慣病・糖尿病センター |
| Endocrine 40(2): 315-317 (2011年8月) | Evaluation of bone markers in hypophosphatemic rickets/osteomalacia | 今西康雄 | 内分泌・骨・リウマチ内科 |
| J Toxicol Pathol 24(1): 25-36 (2012年1月) | Enhanced Urinary Bladder, Liver and Colon Carcinogenesis in Zucker Diabetic Fatty Rats in a Multiorgan Carcinogenesis Bioassay: Evidence for Mechanisms Involving Activation of PI3K Signaling and Impairment of p53 on Urinary Bladder Carcinogenesis | 稲葉雅章 | 内分泌・骨・リウマチ内科 |

| | | | |
|---|---|------|--------------|
| Calcif Tissue Int 89(1): 29-35 (2011年5月) | Cinacalcet HCl suppresses Cyclin D1 oncogene-derived parathyroid cell proliferation in a murine model for primary hyperparathyroidism | 今西康雄 | 内分泌・骨・リウマチ内科 |
| J Bone Miner Metab 30(1): 93-99 (2011年7月) | Matrix extracellular phosphoglycoprotein is expressed in causative tumors of oncogenic osteomalacia | 今西康雄 | 内分泌・骨・リウマチ内科 |
| Life Sci 90(5-6): 212-218 (2011年12月) | Higher serum bone alkaline phosphatase as a predictor of mortality in male hemodialysis patients | 稲葉雅章 | 腎臓内科学 |
| Nephron Clin Pract 119(4): c283-288 (2011年9月) | Relationship between fat mass and serum high-sensitivity C-reactive protein levels in prevalent hemodialysis patients | 石村栄治 | 腎臓内科学 |
| Clin Nephrol 76(4): 259-265 (2011年10月) | Effect of cinacalcet on bone mineral density of the radius in hemodialysis patients with secondary hyperparathyroidism | 石村栄治 | 腎臓内科学 |
| Nephron Clin Pract 120(2): c91-100 (2012年3月) | Disappearance of Association in Diabetic Patients on Hemodialysis between Anemia and Mortality Risk: The Japan Dialysis Outcomes and Practice Pattern Study | 稲葉雅章 | 腎臓内科学 |
| Scand J Gastroenterol. 46(6):701-9.(2011年06月) | Dysregulated upregulation of T-cell immunoglobulin and mucin domain-3 on mucosal T helper 1 cells in patients with Crohn's disease. | 渡辺憲治 | 消化器内科 |
| J Clin Gastroenterol. 45(6):567-8 (2011年06月) | Risk factors associated with dyspepsia in Japanese adults. | 藤原靖弘 | 消化器内科 |
| Dig Endosc.23 Suppl 1:143-9. (2011年05月) | Endoscopic differential diagnosis between ulcerative colitis-associated neoplasia and sporadic neoplasia in surveillance colonoscopy using narrow band imaging. | 渡辺憲治 | 消化器内科 |
| J Gastroenterol. 46(7):883-93. (2011年07月) | Role of Th-2 cytokines in the development of Barrett's esophagus in rats. | 藤原靖弘 | 消化器内科 |
| Hepatol Res. 41(8):731-7. (2011年08月) | High prevalence of hepatitis C virus infection in Airin district, Osaka, Japan: A hospital-based study of 1162 patients. | 荒川哲男 | 消化器内科 |
| Intern Med. 50(21):2443-7 (2011年10月) | Cigarette smoking and its association with overlapping gastroesophageal reflux disease, functional dyspepsia, or irritable bowel syndrome. | 藤原靖弘 | 消化器内科 |
| J Gastroenterol.46(11):1273-83.(2011年11月) | Investigation of pretreatment prediction of proton pump inhibitor (PPI)-resistant patients with gastroesophageal reflux disease and the dose escalation challenge of PPIs-TORNADO study: a multicenter prospective study by the Acid-Related Symptom Research Group in Japan. | 藤原靖弘 | 消化器内科 |
| J Gastroenterol.15. [Epub ahead of print](2011年11月) | Rikkunshito improves symptoms in PPI-refractory GERD patients: a prospective, randomized, multicenter trial in Japan. | 富永和作 | 消化器内科 |
| Gastrointest Endosc. 24. [Epub ahead of print] (2012年01月) | Internal hypoechoic feature by EUS as a possible predictive marker for the enlargement potential of gastric GI-stromal tumors. | 富永和作 | 消化器内科 |
| Digestion 84:3-9. (2011年08月) | Effect and safety of granulocyte-monocyte adsorption apheresis for patients with ulcerative colitis positive for cytomegalovirus in comparison with immunosuppressants. | 渡辺憲治 | 消化器内科 |
| J Gastroenterol46 Suppl 1:11-16.(2011年04月) | Target biopsy or step biopsy? Optimal surveillance for ulcerative colitis: a Japanese nationwide randomized controlled trial. | 渡辺俊雄 | 消化器内科 |
| Dig Dis Sci. 8. [Epub ahead of print](2012年03月) | Effect of Mosapride Citrate on Gastric Emptying in Interferon-Induced Gastroparesis. | 富永和作 | 消化器内科 |
| 薬理と治療39:961-966 (2011年11月) | ランソプラゾールOD錠の薬物動態に及ぼす食事の影響についての検討 | 藤原靖弘 | 消化器内科 |
| 信学技報IEICE Technical Report ;CS2011-61:85-90(2011年11月) | カプセル内視鏡映像を用いたフィードバックチャンネルを必要としない Distributed Video Codingの性能評価 | 藤原靖弘 | 消化器内科 |

| | | | |
|--|--|------|-------|
| 消化器内科(1884-2895)53巻5号 Page488-491(2011年11月) | 機能性ディスぺプシア患者の内視鏡所見と上腹部症状や胃運動機能との関連性 | 富永和作 | 消化器内科 |
| 消化器心身医学 18, 32-38 (2011年04月) | 機能性ディスぺプシア患者の脳内serotonin transporterと消化器症状相関 | 富永和作 | 消化器内科 |
| 漢瘍38(1) 90-93(2011年05月) | レノミドによるインドメサシン誘発小腸傷害の抑制作用と小腸内フローラへの影響 | 谷川徹也 | 消化器内科 |
| 消化器内科52,345-348 (2011年09月) | 多チャンネル食道インピーダンス-pHモニタリングを用いた難治性NERDの病態と治療戦略 | 富永和作 | 消化器内科 |
| Curr Med Chem 19:77-81 (2011年04月) | Small intestinal injury caused by NSAID/aspirin: Finding new from old | 荒川哲男 | 消化器内科 |
| 医学と薬学 66(supp2):24-32 (2011年04月) | GERD患者のQOLの実態とエソメプラゾールのQOL改善効果 | 藤原靖弘 | 消化器内科 |
| 成人病と生活習慣病 41:1408-1411(2011年04月) | 胃食道逆流症 (GERD)と性差医療 | 藤原靖弘 | 消化器内科 |
| 臨床60:1745-1750(2011年06月) | 睡眠呼吸障害と全身疾患:胃食道逆流症 | 藤原靖弘 | 消化器内科 |
| 消化器外科 34:1313-1318 (2011年08月) | Barrett食道, Barrett食道癌の疫学 | 藤原靖弘 | 消化器内科 |
| Ulcer Research 38:49-53(2011年05月) | GERD研究の新展開-温故知新 | 藤原靖弘 | 消化器内科 |
| 日本内科学会雑誌100:3655-3663(2011年12月) | 薬物起因性消化管傷害の病態と治療 | 荒川哲男 | 消化器内科 |
| 胃と腸46:2009-2015 (2011年12月) | 難治性潰瘍性大腸炎と5-ASA製剤 大量療法を中心に | 渡辺憲治 | 消化器内科 |
| 漢瘍 38:139-141(2011年09月) | 炎症性腸疾患における末梢血未熟形質細胞のケモカインレセプター発現の検討 | 渡辺憲治 | 消化器内科 |
| IBD Research5:209-213(2011年09月) | 診断講座 症例から学ぶIBD鑑別診断のコツ(第11回) 潰瘍性大腸炎様病変から短期間で典型的なクローン病病変に移行した1例 | 渡辺憲治 | 消化器内科 |
| 消化器内視鏡23:805-810 (2011年04月) | 大腸 Colitic Cancerの診断 Tri-modal Image Enhanced Endoscopyによる潰瘍性大腸炎サーベイランス内視鏡 | 渡辺憲治 | 消化器内科 |
| 消化器内視鏡 24:181-182 (2012年2月) | カプセル内視鏡の位置づけ-現状と将来展望(適応・禁忌も含めて) | 渡辺憲治 | 消化器内科 |
| Medicina49:253-255 (2012年02月) | 下痢症に対する止瀉薬・薬物療法 | 山上博一 | 消化器内科 |
| G.I.Research 19, 575-583(2011年12月) | 消化管の知覚検査法 | 富永和作 | 消化器内科 |
| 医学のあゆみ238, 897-903(2011年09月) | 消化管神経系の構造と機能 中枢からの消化管生理機能制御 自律神経と消化管機能 | 富永和作 | 消化器内科 |
| 日本臨床 69,1039-1043(2011年6月) | NSAIDs潰瘍の予防・治療戦略・NSAIDs潰瘍の予防・治療における抗潰瘍薬の位置づけ プロスタグランジン製剤・防御因子増強薬 | 渡辺俊雄 | 消化器内科 |

| | | | |
|--|---|-------|-------------|
| 診断と治療99, 771-776 (2011年5月) | 日常診療でまず使ってみたい漢方ベストチョイス15 GERD 六君子湯 | 富永和作 | 消化器内科 |
| 消化器内視鏡Vol. 23 No.7 1171-1177 (2011年7月) | 低用量アスピリン起因性消化管傷害および消化管出血に関するガイドライン | 谷川徹也 | 消化器内科 |
| The GI Frontier Vol.7 No.2171-182(2011年7月) | 胃潰瘍治療過程におけるオートファジーの意義 | 谷川徹也 | 消化器内科 |
| 消化器の臨床 14:553-558(2011年12月) | クローン病の鑑別診断 —間違えやすい腸疾患を見分けるポイント | 渡辺憲治 | 消化器内科 |
| Endoscopy43:E215(2011年4月) | Mucosal tears during colonoscopy in a patient with ulcerative colitis | 山上博一 | 消化器内科 |
| Am J Gastroenterology(2012年1月) | Complete remission of protein-losing gastroenteropathy associated with Sjögren syndrome by B cell-targeted therapy with rituximab | 谷川徹也 | 消化器内科 |
| Gastroenterol Endosc53:3280-5 (2011年10月) | ESD後49日目に遅発性穿孔を来した早期胃癌の一例 | 富永和作 | 消化器内科 |
| Gastroenterol Endosc53:3523-3528(2011年11月) | フルチカゾン嚥下療法が有効であった狭窄を伴う好酸球性食道炎の1例 | 藤原増弘 | 消化器内科 |
| J Medical Virology (2011年5月) | Association of IL28B variants with response to pegylated-interferon alpha plus ribavirin combination therapy reveals intersubgenotypic differences between genotypes 2a and 2b. | 田守昭博 | 肝胆膵内科 |
| Hepatology Research (2011年5月) | Close correlation of liver stiffness with collagen deposition and presence of myofibroblasts in non-alcoholic fatty liver disease. | 河田則文 | 肝胆膵内科 |
| J Interferon Cytokine Research (2011年8月) | Investigation of interferon- α response by a single amino acid substitution of nonstructural protein 5A in hepatitis C virus-infected patients. | 田守昭博 | 肝胆膵内科 |
| Hepatology Research (2011年8月) | High prevalence of hepatitis C virus infection in Airin district, Osaka, Japan: A hospital-based study of 1162 patients. | 榎本 大 | 肝胆膵内科 |
| Hepatology Research (2011年12月) | Favorable factors for re-treatment with pegylated interferon α 2a plus ribavirin in patients with high viral loads of genotype 1 hepatitis C virus. | 田守昭博 | 肝胆膵内科 |
| Gut (2012年1月) | MicroRNA-221/222 upregulation indicates the activation of stellate cells and the progression of liver fibrosis. | 河田則文 | 肝胆膵内科 |
| Hepatology Research (2012年2月) | Response-guided therapy for patients with chronic hepatitis who have high viral loads of hepatitis C virus genotype 2. | 田守昭博 | 肝胆膵内科 |
| J Hum Genet. 2012 Feb;57(2):145-52. (2012年02月) | Commentary on the mutation spectrum of and founder effects affecting the PTS gene in East-Asian populations. | 新宅治夫 | 小児科 新生児科 |
| J Hum Genet. 56:306-312, 2011 | Molecular characterization of phenylketonuria and tetrahydrobiopterin-responsive phenylalanine hydroxylase deficiency in Japan. | 岡野善行 | 小児科 新生児科 |
| Genes Cells. 2012 Jan 11. (2012年01月) | Phospho-Ser727 of STAT3 regulates STAT3 activity by enhancing dephosphorylation of phospho-Tyr705 largely through TC45. | 若原良平 | 小児科 新生児科 |
| 日本小児科学会雑誌, 115(10):1573-1579, 2011 (2011年11月) | 新生児マススクリーニング対象疾患の保険契約の現状について | 新宅治夫 | 小児科 新生児科 |
| 日本マス・スクリーニング学会誌 21: 15-19, 2011 (2011年6月) | ライゾーム病のマス・スクリーニングとこれに関わる遺伝カウンセリング | 田中あけみ | 小児科 新生児科 |

| | | | |
|--|--|------|-------------|
| Br J Haematol.2011 Dec 7.1. (2011年12月) | Does octreotide prevent L-asparaginase-associated pancreatitis in children with acute lymphoblastic leukaemia? | 時政定雄 | 小児科 新生児科 |
| 日本小児皮膚科学会雑誌 30巻3号; 215-218, 2011(2011年10月) | 2. 皮膚症状にて発症し寛解導入療法のみで長期寛解を得ている先天性白血病の1例 | 時政定雄 | 小児科 新生児科 |
| 脳とこころのプライマリケア 7 食事と性、中山和彦編集、日野原重明、宮岡等監修、58-64、シナジー、(2011年7月) | 摂食障害の概念と分類 | 切池信夫 | 神経精神科 |
| 脳とこころのプライマリケア 7 食事と性、中山和彦編集、日野原重明、宮岡等監修、76-84、シナジー、(2011年7月) | 摂食障害の生物学 | 切池信夫 | 神経精神科 |
| 脳とこころのプライマリケア 7 食事と性、中山和彦編集、日野原重明、宮岡等監修、111-120、シナジー (2011年7月) | 神聖性過食症 | 井上幸紀 | 神経精神科 |
| 精神科領域からみた心身症、責任編集 石津 宏、153-162、中山書店 東京 (2011年8月) | 摂食障害の心身医学 | 切池信夫 | 神経精神科 |
| こころの病気のセルフチェック 樋口輝彦編集、135-148、日本評論社、(2011年8月) | 摂食障害 | 切池信夫 | 神経精神科 |
| 経誌、114:49-54, 12年1月) | 摂食障害患者の外来治療 | 切池信夫 | 神経精神科 |
| 摂食障害治療ガイドライン 12-14、医学書院、東京 (2012年2月) | 摂食障害について | 切池信夫 | 神経精神科 |
| 摂食障害治療ガイドライン 44-46、医学書院、東京 (2012年2月) | 治療に対する動機づけ | 切池信夫 | 神経精神科 |
| 今日の精神疾患治療指針 樋口輝彦、市川宏伸、神庭重信、朝田隆、中込和幸、279-282、医学書院 東京、(2012年1月) | 摂食障害における認知行動療法 | 切池信夫 | 神経精神科 |
| 臨床精神医学 第40巻増刊号 248-250、(2011年) | 神経性過(大)食症 | 切池信夫 | 神経精神科 |
| 樋口輝彦、石郷岡純 (eds.), 向精神薬のリスク・ベネフィット、精神科臨床リユミエール25、中山書店、東京、2011; 198-206(2011年5月) | 社交不安障害、 | 永田利彦 | 神経精神科 |
| ここが知りたい 職場のメンタルヘルスケア 日本産業精神保健学会編 南山堂、2011-94 (2011年7月) | 精神病性障害 | 井上幸紀 | 神経精神科 |
| ここが知りたい 職場のメンタルヘルスケア 日本産業精神保健学会編 南山堂、p130-133、(2011年7月) | 摂食障害 | 井上幸紀 | 神経精神科 |
| 脳とこころのプライマリケア 第6巻 幻覚と妄想、シナジー、85-92、(2011年11月) | 症状精神病の幻覚妄想、 | 橋本博史 | 神経精神科 |
| 精神科医のためのケースレポート・医療文書の書き方 東京:中山書店 p42-43、(2011年6月) | 広汎性発達障害、 | 宮脇大 | 神経精神科 |
| 精神科医のためのケースレポート・医療文書の書き方 東京:中山書店 p44-45、(2011年6月) | 注意欠如・多動性障害(ADHD) | 宮脇大 | 神経精神科 |

| | | | |
|--|---|------|-------------|
| 治療2011 診療ガイドダイジェスト、前沢政次、坂東浩 編集、178-179、南山堂、東京、(2011年5月) | 摂食障害・思春期やせ症 | 切池信夫 | 神経精神科 |
| 精神科 18:624-628、(2011年6月) | 摂食障害 | 切池信夫 | 神経精神科 |
| 心身医 51: 609-614 (2011年7月) | 摂食障害と全般性社交不安障害、治療の観点から | 永田利彦 | 神経精神科 |
| 総合臨床 60(4):603-605. (2011年4月) | 難治性うつ病への治療戦略 | 永田利彦 | 神経精神科 |
| 産業医学ジャーナル、36(4) 12-13. (2011年4月) | 災害後におけるこころのケアのポイント | 井上幸紀 | 神経精神科 |
| 臨床精神薬理 14:583-589(2011年8月) | 強迫スペクトラム障害の薬物療法「摂食障害における強迫性・衝動性と薬物療法」 | 宮脇大 | 神経精神科 |
| 産業医学ジャーナル、36(4) 12-13. (2011年10月) | 災害後におけるこころのケアのポイント | 井上幸紀 | 神経精神科 |
| Journal of Dermatology 38(5):482-485 (2011年5月) | Concomitant occurrence of patch granuloma annulare and classical granuloma annulare | 鶴田大輔 | 皮膚科 |
| Journal of Traditional Medicines 28(2):83-91 (2011年5月) | A case of long-term remission of refractory atopic dermatitis by the addition of attentive listening, dietary education and oral Kampo preparations to standard therapy | 小林裕美 | 皮膚科 |
| Osaka City Medical Journal 57(1):45-48 (2011年6月) | Bilateral nevus of Ota: a rare manifestation congenital type in a boy | 立石千晴 | 皮膚科 |
| Osaka City Medical Journal 57(1):31-44 (2011年6月) | Histological differentiation, histogenesis and prognosis of cutaneous angiosarcoma | 加茂理英 | 皮膚科 |
| Journal of Dermatology 38(10): 993-995 (2011年10月) | Allergic contact dermatitis caused by gum rosin and wood rosin in Tako-no-Suidashi ointment | 鶴田大輔 | 皮膚科 |
| Journal of Dermatology 38(12):1193-1195 (2011年12月) | Recalcitrant subungual verruca of a child successfully treated with combination use of traditional Japanese herbal medicines, shokenchuto and makyoyokukanto | 小林裕美 | 皮膚科 |
| Journal of Dermatology 38(12):1177-1179 (2011年12月) | Atypical epidermolysis bullosa simplex with a missense keratin 14 mutation p.Arg125Cys | 鶴田大輔 | 皮膚科 |
| Journal of Allergy and Clinical Immunology 129(3):726-738.e8 (2012年3月) | Endocannabinoids limit excessive mast cell maturation and activation in human skin | 菅原弘二 | 皮膚科 |
| Cardiovascular and interventional radiology. 35(1):180-183 (2012年1月) | Successful balloon-occluded retrograde transvenous obliteration for gastric varix mainly draining into the pericardiophrenic vein. | 三木幸雄 | 放射線科 |
| Physics in medicine and biology. 56(20):N237-N246 (2011年10月) | Direct impact analysis of multi-leaf collimator leaf position errors on dose distributions in volumetric modulated arc therapy: a pass rate calculation between measured planar doses with and without the position errors. | 三木幸雄 | 放射線科 |
| Nihon Hoshasen Gijutsu Gakkai Zasshi. 67(7) 779-784 (2011年) | Mechanical accuracy of a stereotactic irradiation system using a micro multi-leaf collimator. | 細野雅子 | 放射線科 |
| IVR: Interventional Radiology 26(2):190-195 (2011年5月) | LeVeen Needleを用いた肺RFAについて. | 山本 晃 | 放射線科 |
| Journal of Surgical Research 171: 479-485, 2011(2011年7月) | Meta-analysis of laparoscopy-assisted and open distal gastrectomy for gastric cancer | 平川弘聖 | 腫瘍外科 (第1外科) |
| Oncogene 30(14): 1693-705, 2011(2011年7月) | Transforming growth factor- β decreases the cancer-initiating cell population within diffuse-type gastric carcinoma cells | 平川弘聖 | 腫瘍外科 (第1外科) |

| | | | |
|---|---|-------|----------------|
| Journal of Surgical Research 174: 130-135, 2012(2012年5月) | Role of the stemness factors Sox2, Oct3/4, and nanog in gastric carcinoma | 八代正和 | 腫瘍外科 (第1外科) |
| Oncology Reports 25: 989-995, 2011 (2011年12月) | Intraperitoneal administration of an adenovirus vector carrying REIC/Dkk-3 suppresses peritoneal dissemination of scirrhous gastric carcinoma | 八代正和 | 腫瘍外科 (第1外科) |
| Cancer Science 102: 683-689, 2011 (2011年4月) | Identification of HLA-A*2402-restricted epitope peptide derived from ERAs oncogene expressed in human scirrhous gastric cancer | 田中浩明 | 腫瘍外科 (第1外科) |
| International Journal of Surgical Pathology 19: 207-211, 2011 (2011年4月) | Myositis ossificans associated with subclinical idiopathic thrombocytopenic purpura: Report of a case | 小野田尚佳 | 腫瘍外科 (第1外科) |
| Oncology Reports 25: 905-913, 2011 (2011年4月) | Anti-protein-bound polysaccharide-K monoclonal antibody binds the active structure and neutralizes direct antitumor action of the compound | 田中浩明 | 腫瘍外科 (第1外科) |
| International Journal of Oncology 38: 619-627, 2011 (2011年4月) | Tumor-associated MUC5AC stimulates in vivo tumorigenicity of human pancreatic cancer | 木村健二郎 | 腫瘍外科 (第1外科) |
| Clinical and Experimental Metastasis 28: 627-636, 2011 (2011年12月) | RhoA/ROCK signaling mediates plasticity of scirrhous gastric carcinoma motility | 八代正和 | 腫瘍外科 (第1外科) |
| Cancer Letters 307: 47-52, 2011 (2011年8月) | A FGFR2 inhibitor, K123057, enhances the chemosensitivity of drug-resistant gastric cancer cells | 平川弘聖 | 腫瘍外科 (第1外科) |
| Investigational New Drugs (Online 9 pages), 2011 (2011年7月) | Foretinib (GSK1363089), a multi-kinase inhibitor of MET and VEGFRs, inhibits growth of gastric cancer cell lines by blocking inter-receptor tyrosine kinase networks | 八代正和 | 腫瘍外科 (第1外科) |
| Journal of Gastrointestinal Surgery 15: 1375-1385, 2011 (2011年8月) | A meta-analysis of the short- and long-term results of randomized controlled trials that compared laparoscopy-assisted and conventional open surgery for rectal cancer | 前田 清 | 腫瘍外科 (第1外科) |
| Journal of Cancer 425-434: 2011 (2011年8月) | A meta-analysis of the short- and long-term results of randomized controlled trials that compared laparoscopy-assisted and conventional open surgery for colorectal cancer | 前田 清 | 腫瘍外科 (第1外科) |
| Scandinavian Journal of Gastroenterology 46: 701-709, 2011 (2011年6月) | Dysregulated upregulation of T-cell immunoglobulin and mucin domain-3 on mucosal T helper 1 cells in patients with Crohn's disease | 前田 清 | 腫瘍外科 (第1外科) |
| Hepatogastroenterology 59: 130-133, 2012 (2012年1月-2月) | Predictive value of expression of ERCC 1 and GST-p for 5-f fluorouracil/oxaliplatin chemotherapy in advanced colorectal cancer | 野田英児 | 腫瘍外科 (第1外科) |
| Pancreas 40: 896-904, 2011 (2011年8月) | Identification of HLA-A*0201- and A*2402-restricted epitopes of mucin 5AC expressed in advanced pancreatic cancer | 田中浩明 | 腫瘍外科 (第1外科) |
| British Journal of Cancer 105: 1522-1532, 2011 (2011年11月) | An EGFR inhibitor enhances the efficacy of SN38, an active metabolite of irinotecan, in SN38-refractory gastric carcinoma cells | 八代正和 | 腫瘍外科 (第1外科) |
| British Journal of Cancer 105: 1750-1758, 2011 (2011年11月) | Linoleic acid enhances angiogenesis through suppression of angiostatin induced by plasminogen activator inhibitor 1 | 平川弘聖 | 腫瘍外科 (第1外科) |
| British Journal of Cancer 105: 996-1001, 2011 (2011年9月) | Upregulation of cancer-associated myofibroblasts by TGF-β from scirrhous gastric carcinoma cells | 八代正和 | 腫瘍外科 (第1外科) |
| The American Journal of Pathology 179: 2920-2930, 2011 (2011年12月) | Bone morphogenetic protein-2/4 play tumor suppressive roles in human diffuse-type gastric carcinoma | 平川弘聖 | 腫瘍外科 (第1外科) |
| Annals of Surgical Oncology 18: 3718-3725, 2011 (2011年12月) | Borrmann's macroscopic criteria and p-Smad2 expression are useful predictive prognostic markers for cytology-positive gastric cancer patients without overt peritoneal metastasis | 八代正和 | 腫瘍外科 (第1外科) |

| | | | |
|---|---|-------|-------------|
| Modern Pathology 24: 1390-1403, 2011 (2011年10月) | THBS4, a novel stromal molecule of diffuse-type gastric adenocarcinomas, identified by transcriptome-wide expression profiling | 八代正和 | 腫瘍外科 (第1外科) |
| Anticancer Research 31: 3369-3375, 2011 (2011年10月) | Effects of acute and chronic hypoxia on the radiosensitivity of gastric and esophageal cancer cells | 平川弘聖 | 腫瘍外科 (第1外科) |
| Anticancer Research 31: 3035-3040, 2011 (2011年8月) | Phase I study of S-1 in combination with trastuzumab for HER2-positive metastatic breast cancer | 高島 勉 | 腫瘍外科 (第1外科) |
| Oncology 81: 192-198, 2011 (2011年11月) | HER3 overexpression as an independent indicator of poor prognosis for patients with curatively resected pancreatic cancer | 仲田文造 | 腫瘍外科 (第1外科) |
| Breast Cancer Research (Online 13 pages), 2011 (2011年11月) | Advantages of adjuvant chemotherapy for patients with triple-negative breast cancer at Stage II: usefulness of prognostic markers E-cadherin and Ki67 | 平川弘聖 | 腫瘍外科 (第1外科) |
| Cancer Science 103: 228-232, 2012(2012年1月) | Plasminogen activator inhibitor, 1 RNA interference suppresses gastric cancer metastasis in vivo | 平川弘聖 | 腫瘍外科 (第1外科) |
| Surgery Today 42: 185-190, 2012 (2012年1月) | Successful surgical treatment of advanced follicular thyroid carcinoma with tumor thrombus infiltrating the superior vena cava | 小野田尚佳 | 腫瘍外科 (第1外科) |
| 日本気管食道学会会報 62(2)133 (2011年4月) | 食道癌に対する胸腔鏡下上縦隔郭清 | 李 榮柱 | 肝胆膵外科 |
| 手術65(6)691-697 (2011年5月) | 食道癌に対する食道亜全摘術(鏡視下) | 岸田 哲 | 肝胆膵外科 |
| 日本臨床69(増刊6)285-293 (2011年8月) | 胸腔鏡下食道癌根治術 | 大杉治司 | 肝胆膵外科 |
| 臨牀消化器内科26(10)1375-1380 (2011年9月) | 外科治療成績からみた食道癌の治療戦略 | 李 榮柱 | 肝胆膵外科 |
| 手術65(11)1585-1590 (2011年10月) | 左側臥位two モニク法 手技のコツと有用性 | 大杉治司 | 肝胆膵外科 |
| 手術65(12)1723-1729 (2011年11月) | 胸腔鏡下食道癌根治術-左側臥位- | 大杉治司 | 肝胆膵外科 |
| Esophagus9(1)39-43 (2012年1月) | A successful rescue with extra-anatomical bypass for massive bleeding of the brachiocephalic artery following salvage pharyngo-esophagectomy | 大杉治司 | 肝胆膵外科 |
| General Thorac and Cardiovascular Surgery 59(5),335-340 (2011年5月) | Increase in preoperative serum reactive oxygen metabolite levels indicates nodal extension in patients with clinical stage I lung adenocarcinoma | 西山典利 | 呼吸器外科 |
| Surgery Today 41(6),849-853(2011年7月) | Pulmonary Resection for Lung Cancer with Impaired Pulmonary Function Due to Severe Spinal Deformity: Report of a Case | 西山典利 | 呼吸器外科 |
| 肺癌 51(7),309-334(2011年12月) | 胸腔鏡下肺生検により診断したpulmonary epithelioid hemangioendotheliomaの1例 | 泉 信博 | 呼吸器外科 |
| Surgical Endoscopy 25(5):1531-1534 (2011年5月) | Single-incision laparoscopic percutaneous extraperitoneal closure for inguinal hernia in children: an initial report | 諸富嘉樹 | 小児外科 |
| 新薬と臨牀 60(4)674-688 (2011年4月) | 肝細胞癌に対する集学的治療のアプローチ 分子標的治療薬を用いた現状と今後の課題 ～外科の立場から～ | 久保正二 | 肝胆膵外科 |

| | | | |
|--|---|-------|--------|
| 消化器外科 34(7)1099-1107 (2011年6月) | 肝細胞癌に対する肝切除術の周術期管理 | 竹村茂一 | 肝胆膵外科 |
| 肝胆膵 63(4)671-675 (2011年10月) | サイトケラチン19陽性肝細胞癌の臨床学的特徴 | 上西崇弘 | 肝胆膵外科 |
| 外科 74(2)191-198 (2012年2月) | 肝癌治療ガイドラインについて | 久保正二 | 肝胆膵外科 |
| 消化器外科学レビュー2011 書籍 81-86 (2011年5月) | 肝細胞癌 | 久保正二 | 肝胆膵外科 |
| 膵・胆管合流異常の新たな展開 ―概念、疫学、診断、治療の総点検― 書籍 172-178 (2011年11月) | 胆管切除後の発癌―膵臓側胆管・膵臓― | 久保正二 | 肝胆膵外科 |
| Gen Thorac Cardiovasc Surg 59(4):261-267 (2011年4月) | Evaluation of risk factors for hospital mortality and current treatment for poststernotomy mediastinitis | 細野光治 | 心臓血管外科 |
| 胸部外科 64(5):415-418 (2011年5月) | パルス形成に基づく間欠的開放障害による備帽弁位人工弁機能不全の1例 | 佐々木康之 | 心臓血管外科 |
| Gen Thorac Cardiovasc Surg 141(5):1289-1297 (2011年5月) | Cardiotomy suction, but not open venous reservoirs, activates coagulofibrinolysis in coronary artery surgery | 末廣茂文 | 心臓血管外科 |
| Am J Cardiol 108(7):1002-1007 (2011年10月) | Relation of aortic arch complex plaques to risk of cerebral infarction in patients with aortic stenosis | 平居秀和 | 心臓血管外科 |
| 血栓と循環 19(3):340-341 (2011年10月) | 特集データブック アテローム血管症の大規模臨床試験PART3 1. 動脈硬化とイベント発症 2. Polyvascular diseaseの心血管系イベント発生率への影響:アテローム血管症のイベントリスクに関する国際観察研究からの検討 | 細野光治 | 心臓血管外科 |
| European Journal of Cardio-thorac Surgery 40(6):1531-1533 (2011年12月) | Aortic valve translocation for treatment of a deteriorated stentless valve | 細野光治 | 心臓血管外科 |
| 日本外科感染症学会雑誌 8(6):693-698 (2011年12月) | 開心術後メチシリン耐性黄色ブドウ球菌縦隔炎に対する手術手洗いで用スポンジ・低検圧ポータブル吸引器を用いた持続検圧吸引療法(第2報)-連日洗浄法との比較- | 佐々木康之 | 心臓血管外科 |
| 胸部外科 65(2):124 (2012年2月) | Complex aortic root infectionに対するステントレス人工弁を用いた大動脈基部再建 | 末廣茂文 | 心臓血管外科 |
| Neurologia medico-chirurgica 51(5) 385 (2011年4月) | Tentorial schwannoma mimicking meningioma | 後藤剛夫 | 脳神経外科 |
| Neurology India 59(3) 339-343 (2011年5月) | Non-normalized individual analysis of statistical parametric mapping for clinical fMRI | 露口尚弘 | 脳神経外科 |
| Neurologia medico-chirurgica 51(1) 48-51 (2011年7月) | Vertebral Artery Management in Craniovertebral junction Surgery | 露口尚弘 | 脳神経外科 |
| Neurologia medico-chirurgica 51(6) 467-471 (2011年7月) | Three-Dimensional Video Presentation of Microsurgery by the Cross-Eyed Viewing Method Using a High-Definition Video System | 石橋 謙一 | 脳神経外科 |
| Neurologia medico-chirurgica 51(10) 732-735 (2011年7月) | Spinal Hemangioblastoma of Cauda Equina Origin Not Associated With Von Hippel-Lindau Syndrome | 高見俊宏 | 脳神経外科 |
| Neurosurgery 69(1 Suppl Operative) 88-94 (2011年9月) | Middle skull base approach with posterolateral mobilization of the geniculate ganglion to access the clival regions | 後藤剛夫 | 脳神経外科 |

| | | | |
|--|--|------|-------|
| Journal of Neurosurgery 115(4) 802-810 (2011年9月) | Bilateral subfrontal approach for tuberculum sellae meningiomas in long-term postoperative visual outcome | 後藤剛夫 | 脳神経外科 |
| Journal of Korean Neurosurgical Society 50(1) 51-53 (2011年11月) | Medulloblastoma Manifesting as Sudden Sensorineural Hearing Loss | 露口尚弘 | 脳神経外科 |
| JOSKAS36巻1号 Page32-33 (2011年03月) | 歩容異常における円板状半月の頻度 | 橋本祐介 | 整形外科 |
| Hip Joint(0389-3634)37巻 Page503-506(2011.09) | 当施設におけるModulus stemの短期成績 | 池淵充彦 | 整形外科 |
| 整形・災害外科(0387-4095)54巻6号 Page679-685(2011.05) | 頸椎症性神経根症に対する顕微鏡視下key hole foraminotomy | 寺井秀富 | 整形外科 |
| 臨床透析(27)175-182,2011 (2011年4月) | 透析患者の骨折予防 | 小池達也 | 整形外科 |
| 日本医師会雑誌(0021-4493)140巻特別2 PageS236-S239(2011.10) | 症状からアプローチするプライマリケア 腰痛 | 豊田宏光 | 整形外科 |
| 今日の移植 24(2)179-181 (2011年4月) | 腎移植維持期の治療戦略 維持期におけるグラセプター使用 | 内田潤次 | 泌尿器科 |
| Clinical Nephrology 75(4) (2011年4月) | Factors associated with silent cerebral microbleeds in hemodialysis patients | 長沼俊秀 | 泌尿器科 |
| Transplant Immunology 24(4) (2011年5月) | Glucose intolerance in renal transplant recipients is associated with increased urinary albumin excretion. | 内田潤次 | 泌尿器科 |
| Transplantation proceedings 44(1)204-209 (2012年1月) | Excellent outcomes of ABO-incompatible kidney transplantation: A single-center experience. | 内田潤次 | 泌尿器科 |
| LOWER URINARY TRACT SYMPTOMS 4(1)25-28 (2012年1月) | Suppressive Effects of Evisprostat, a Phytotherapeutic Agent, on Lower Urinary Tract Symptoms in Prostate Cancer Patients Treated with Brachytherapy | 田中智章 | 泌尿器科 |
| Transplantation proceedings 44(1)128-133 (2012年1月) | Conversion of stable kidney transplant recipients from a twice-daily program to a once-daily tacrolimus formulation: A short-term study on its effects on glucose metabolism | 内田潤次 | 泌尿器科 |
| Molecular Medicine of Reports 5(1) (2012年1月) | Risk of cardiovascular disease in kidney donors as a chronic kidney disease cohort. | 長沼俊秀 | 泌尿器科 |
| British Journal of Nutrition. 2011 Apr;105(8):1251-7. (2011年4月) | Dietary patterns during pregnancy and the risk of postpartum depression in Japan: the Osaka Maternal and Child Health Study | 石河 修 | 女性診療科 |
| Anticancer Reserch. 2011 Apr;31(4):1271-7. (2011年4月) | Claudin-4: a potential therapeutic target in chemotherapy-resistant ovarian cancer | 吉田裕之 | 女性診療科 |
| Asian Pacific Journal of Cancer Prevention. 2011;12(4):865-8 (2011年12月) | An upstream estrogen response element linked to exogenous p53 tumor suppressor gene expression differentiates effects of the codon 72 polymorphism. | 石河 修 | 女性診療科 |
| Scientific Reports 2011;1:180. Epub 2011 Dec 5. (2011年12月) | Potential role of LMP2 as tumor-suppressor defines new targets for uterine leiomyosarcoma therapy. | 石河 修 | 女性診療科 |
| North American Journal of Medical Science. 2011 Sep;3(9):394-9 (2011年9月) | Involvement of proteasome β li subunit, LMP2, on development of uterine leiomyosarcoma. | 市村友季 | 女性診療科 |

| | | | |
|---|--|-------|-------|
| Experimental and therapeutic medicine 3:341-346.2012 (2012年2月) | Expression of mitotic-arrest deficiency 2 predicts the efficacy of neoadjuvant chemotherapy for locally advanced uterine cervical cancer | 角 俊幸 | 女性診療科 |
| Oncology Letter 3;281-286.2012 (2011年11月) | Mitotic arrest deficiency 2 induces carcinogenesis in mucinous ovarian tumors | 角 俊幸 | 女性診療科 |
| 産婦人科の進歩63巻3号 Page401-402 (2011年8月) | 胎児静脈血流速度波形の時相的解析 | 橘 大介 | 女性診療科 |
| 産婦人科の進歩63巻3号 Page359-361 (2011年8月) | 当科における進行子宮頸癌に対する治療前化学療法 | 角 俊幸 | 女性診療科 |
| 臨床眼科 (2011年10月) | スペクトラルドメイン光干渉断層計による視神経乳頭周囲神経線維断層厚と緑内障性視野障害の関連 | 森脇光康 | 眼科 |
| 臨床眼科 (2011年6月) | 急性網膜壊死に伴う牽引性網膜剥離の治療に光干渉断層計が有用であった1例 | 山本 学 | 眼科 |
| 臨床眼科 (2011年5月) | デジタル青モノクロ画像により網膜内層の菲薄化を検出できた陈旧性腎性網膜症の1例 | 河野剛也 | 眼科 |
| あたらしい眼科 (2011年2月) | トーリック眼内レンズ用リファレンスマーカーの試作 | 安宅伸介 | 眼科 |
| The journal of International advanced otology 2011;73:suppl2:33 | Is blockage of endolymph by dyslodged saccular otoconia a cause of Meniere's disease | 山根英雄 | 耳鼻咽喉科 |
| 日本医師会雑誌 2012;140:110:277-280. (2012年1月) | メニエール病と良性発作性頭位めまい症 | 山根英雄 | 耳鼻咽喉科 |
| 日本耳鼻咽喉科学会会報 2011;114:84-89. (2011年) | 片側頸下部に血管腫を生じた両側頸下腺欠損症の1例 | 井口広義 | 耳鼻咽喉科 |
| 南大阪病院医学雑誌 2012;59(1):79-82 | リンパ節腫脹との鑑別に拡散強調MR neurographyが有用であった頭神経原性腫瘍の1例 | 井口広義 | 耳鼻咽喉科 |
| 総合臨床 2011;60:627-634 (2011年4月) | 臨床病理カンファレンス35 上顎癌 | 井口広義 | 耳鼻咽喉科 |
| Equilibrium Res 2012; 71(1) 10-15 (2012年) | 末梢性めまいとして経過観察中にてんかんの関与が判明した1症例 | 山本秀文 | 耳鼻咽喉科 |
| 南大阪病院医学雑誌 2012;59(1):71-74 | 声門下狭窄にたいして気管形成術をおこなった1例 | 和田匡史 | 耳鼻咽喉科 |
| Equilibrium Res 2011; 70(1)23-29 (2011年10月) | Joubert 症候群の1例 眼球運動についての検討 | 角南貴司子 | 耳鼻咽喉科 |
| Ann Dermatol. 2010;24(1):7-10. (2012年2月) | Utility of Dermoscopy before and after Laser Irradiation in Port Wine Stains. | 小澤俊幸 | 形成外科 |
| Aesthetic Plast Surg. 2012;19 (2012年1月) | A Technique for Auricular Keloid Core Excision Using a Skin Biopsy Punch. | 小澤俊幸 | 形成外科 |
| Osaka City Med J. 2011;57(1):45-8. (2011年6月) | Bilateral nevus of Ota: a rare manifestation congenital type in a boy. | 小澤俊幸 | 形成外科 |
| Medical Photonics. 2011;5:29-35 (2011年4月) | 形成外科領域におけるレーザーの応用と今後の展望 | 小澤俊幸 | 形成外科 |

| | | | |
|---|--|------|--------------|
| Dermatol Surg 2011;37:263-266. | Long term follow-up of a case of cheek hyperpigmentation associated with McCune-Albright syndrome treated with Q switched ruby laser. | 小澤俊幸 | 形成外科 |
| 創傷 2011;2:11-19. (2011年4月) | 難治性足病変に対する積極的保存的療法の試み. | 元村尚嗣 | 形成外科 |
| Journal of Plastic, Reconstructive & Aesthetic Surgery, 64(5): 595-601 (2011年5月) | Facial nerve reconstruction using a muscle flap following resection of parotid gland tumors with thorough recipient bed preparation | 元村尚嗣 | 形成外科 |
| PEPARS 60:9-22 (2011年11月) | 上顎全摘後の再建 | 元村尚嗣 | 形成外科 |
| Acta Otolaryngol. in press, (2012年3月) | Simple maxillary reconstruction following total maxillectomy using artificial bone wrapped with vascularized tissue: five key points to ensure success. | 元村尚嗣 | 形成外科 |
| 日本形成外科学会誌 2011;31:605-612. (2011年9月) | 瘻管カバー用ファンデーション使用による火傷・外傷・産創後瘻管患者のQOL改善効果. | 原田輝一 | 形成外科 |
| International Journal of Hematology 93(4):509-516 (2011年4月) | Reduced-intensity conditioning by fludarabine/busulfan without additional irradiation or T-cell depletion leads to low non-relapse mortality in unrelated bone marrow transplantation. | 日野雅之 | 血液内科・造血細胞移植科 |
| Journal of Experimental & Clinical Cancer Research 10:30-36. (2011年4月) | Factors that contribute to long-term survival in patients with leukemia not in remission at allogeneic hematopoietic cell transplantation. | 日野雅之 | 血液内科・造血細胞移植科 |
| Transplantation Proceedings 43 (10) 3927-3932 (2011年10月) | Immunoglobulin prophylaxis against cytomegalovirus infection in patients at high risk of infection following allogeneic hematopoietic cell transplantation. | 日野雅之 | 血液内科・造血細胞移植科 |
| Leukemia Research 35(9):1205-11 (2011年11月) | Predictability of the response to tyrosine kinase inhibitors via in vitro analysis of Bcr-Abl phosphorylation | 日野雅之 | 血液内科・造血細胞移植科 |
| Haematologica 96(12):1838-45 (2011年12月) | Cytopenias after day 28 in allogeneic hematopoietic cell transplantation: impact of recipient/donor factors, transplant conditions and myelotoxic drugs. | 中前博久 | 血液内科・造血細胞移植科 |
| Lancet Oncology 12(9):841-51 (2011年9月) | Nilotinib versus imatinib for the treatment of patients with newly diagnosed chronic phase, Philadelphia chromosome-positive, chronic myeloid leukaemia: 24-month minimum follow-up of the phase 3 randomised ENESTnd trial. | 中前博久 | 血液内科・造血細胞移植科 |
| International Journal of Hematology 93(4):523-531 (2011年4月) | Use of mycophenolate mofetil in patients received allogeneic hematopoietic stem cell transplantation in Japan. | 日野雅之 | 血液内科・造血細胞移植科 |
| International Journal of Hematology 93(5):624-632 (2011年5月) | Nilotinib as frontline therapy for patients with newly diagnosed Ph+ chronic myeloid leukemia in chronic phase: results from the Japanese subgroup of ENESTnd. | 中前博久 | 血液内科・造血細胞移植科 |
| Leukemia Research 35(9):1205-11 (2011年11月) | Seven-year follow-up of patients receiving imatinib for the treatment of newly diagnosed chronic myelogenous leukemia by the TARGET system. | 日野雅之 | 血液内科・造血細胞移植科 |
| Dementia and Geriatric Cognitive Disorders 32:45-54,2011 (2011年9月) | Clinical course of patients with familial early-onset Alzheimer's disease potentially lacking senile plaques bearing the E693 Δ mutation in amyloid precursor protein. | 嶋田裕之 | 老年内科 神経内科 |
| Geriatr Psychiat Neurology 24,3:123-126,2011 (2011年9月) | Pittsburg compound B-negative dementia -A possibility of misdiagnosis of patients with non-Alzheimer disease-type dementia as having AD | 嶋田裕之 | 老年内科 神経内科 |
| Neuro Sci 33:87-92,2011 (2011年7月) | Two cases of dementias with motor neuron disease evaluated by Pittsburg compound B-positron emission tomography | 嶋田裕之 | 老年内科 神経内科 |
| Endocrine 40:315-317,2011 (2011年11月) | Evaluation of bone markers in hypophosphatemic rickets/osteomalacia | 今西康雄 | 代謝内分泌 |
| J Bone Miner Metab 30:93-99, (2011年8月) | Matrix extracellular phosphoglycoprotein is expressed in causative tumors of oncogenic osteomalacia | 今西康雄 | 代謝内分泌 |

| | | | |
|--|--|------|-------------------|
| Clin Exp Immunol 167:532-542(2011年4月) | Induction of elastin expression in vascular endothelial cells relates to hepatoportal sclerosis in idiopathic portal hypertension: possible link to serum anti-endothelial cell antibodies. | 塩見 進 | 核医学科 |
| Osaka City Med J 57:11-19(2011年6月) | Evaluation of Therapeutic Response to Donepezil by Position Emission Tomography. | 塩見 進 | 核医学科 |
| Hepatol Res 41:611-617(2011年7月) | Clinical applications of positron emission tomography in hepatic tumors. | 塩見 進 | 核医学科 |
| Ann Nucl Med 25:777-786(2011年9月) | Additional value of FDG-PET to contrast enhanced-computed tomography (CT) for the diagnosis of mediastinal lymph node metastasis in non-small cell lung cancer: a Japanese multicenter clinical study. | 塩見 進 | 核医学科 |
| Ann Nucl Med 25:787-795(2011年9月) | Additional effects of FDG-PET to thin-section CT for the differential diagnosis of lung nodules: a Japanese multicenter clinical study. | 塩見 進 | 核医学科 |
| Neurol Sci 33:87-92(2012年2月) | Two cases of dementias with motor neuron disease evaluated by Pittsburgh compound B-positron emission tomography. | 塩見 進 | 核医学科 |
| Journal of computer assisted tomography(2011年3-4月) | Computed tomography and magnetic resonance imaging appearance of prolactinoma with spheroid-type amyloid deposition | 若狭研一 | 病理部 |
| Gen Thorac Cardiovasc Surg(2011年5月) | Increase in preoperative serum reactive oxygen metabolite levels indicates nodal extension in patients with clinical stage I lung adenocarcinoma. | 若狭研一 | 病理部 |
| The American journal of pathology(2011年8月) | Promotion of liver and lung tumorigenesis in DEN-treated cytoglobin-deficient mice | 若狭研一 | 病理部 |
| International journal of cancer(2012年1月) | IGFBP7 downregulation is associated with tumor progression and clinical outcome in hepatocellular carcinoma | 若狭研一 | 病理部 |
| Hepatology(2012年1-2月) | Arterial stimulation and venous sampling for glucagonomas of the pancreas | 若狭研一 | 病理部 |
| Acta haematologica(2012年2月) | Serum cytokine profiles in hemophagocytic syndrome following allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. | 大澤政彦 | 病理部 |
| Journal of experimental & clinical cancer research(2011年4月) | Factors that contribute to long-term survival in patients with leukemia not in remission-at allogeneic hematopoietic cell transplantation. | 大澤政彦 | 病理部 |
| Journal of Nara Medical Association(2011年) | Plasma cell infiltration and mucoid degeneration in the media of ascending aorta in patient with coronary artery disease | 大澤政彦 | 病理部 |
| Japanese Journal of Acute Care Surgery, 第1巻, page15-20(2011年11月) | ・ダメージコントロール戦略の展開を目指した外傷外科医教育 | 溝端康光 | 救急部 (救命救急センター) |
| 日本臨床救急医学会, 第15巻 第1号 Page7-10(2012年2月) | ・心停止後症候群において認められるけいれんの臨床的意義 | 高松純平 | 救急部 (救命救急センター) |

小計16
合計268

(注)1

当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること。(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

| | | | |
|--|--|---|-----|
| 管理責任者氏名 | 病院長 石河 修 | | |
| 管理担当者氏名 | 事務部長兼庶務課長 川上 悟、医事運営課長 熊田 文男、 薬剤部長 永山 勝也、臨床工学部主査 松尾 光則 | | |
| | 保管場所 | 管理方法 | |
| 診療に関する諸記録 | 庶務課 看護部 薬剤部 情報システム課 | <ul style="list-style-type: none"> ・病院日誌→庶務課 ・各科診療日誌→看護部 ・処方せん→薬剤部 ・手術記録→看護部 (OPB室) ・看護記録→情報システム課 (電カル) ・検査所見記録→情報システム課 (電カル) ・エックス線写真→情報システム課 (電カル) ・紹介状→情報システム課 (電カル) ・退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書→情報システム課 (電カル) | |
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 従業者数を明らかにする帳簿 | 庶務課 | |
| | 高度の医療の実績 | 医事運営課 | |
| | 高度の医療技術の開発及び評価の実績 | 医事運営課 | |
| | 高度の医療の研修の実績 | 庶務課 | |
| | 閲覧実績 | | |
| | 紹介患者に対する医療提供の実績 | 医事運営課 | |
| | 入院患者数、外来患者数及び調剤の数を明らかにする帳簿 | 医事運営課 薬剤部 | |
| | 一規則第一号に掲げる第一項各号及び第九条の二十三第 | 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 | 庶務課 |
| | | 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況 | 庶務課 |
| | | 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 | 庶務課 |
| 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況 | | 庶務課 | |
| 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況 | | 庶務課 | |
| 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 | | 庶務課 | |
| 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況 | | 庶務課 | |
| 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 | | 庶務課 | |

(様式第12)

| | | 保管場所 | 管理方法 |
|--|--|---|-------|
| 病 院 の 管 理 及 び 諸 記 録 | 規 則 第 一 条 の 十 一 第 一 項 各 号 及 び 第 九 条 の 二 十 三 第 一 項 第 一 号 に 掲 げ る 体 制 の 確 保 の 状 況 | 院内感染対策のための 指針の策定状況 | 庶務課 |
| | | 院内感染対策のための 委員会の開催状況 | 庶務課 |
| | | 従業者に対する院内感 染対策のための研修の実 施状況 | 庶務課 |
| | | 感染症の発生状況の報 告その他の院内感染対策 の推進を目的とした改善 のための方策の実施状況 | 庶務課 |
| | | 医薬品の使用に係る安 全な管理のための責任者 の配置状況 | 薬剤部 |
| | | 従業者に対する医薬品 の安全使用のための研修 の実施状況 | 薬剤部 |
| | | 医薬品の安全使用のた めの業務に関する手順書 の作成及び当該手順書に 基づく業務の実施状況 | 薬剤部 |
| | | 医薬品の安全使用のた めに必要となる情報の取 集その他の医薬品の安全 使用を目的とした改善の ための方策の実施状況 | 薬剤部 |
| | | 医療機器の安全使用の ための責任者の配置状況 | 臨床工学部 |
| | | 従業者に対する医療機 器の安全使用のための研 修の実施状況 | 臨床工学部 |
| | | 医療機器の保守点検に 関する計画の策定及び保 守点検の実施状況 | 臨床工学部 |
| | | 医療機器の安全使用の ために必要となる情報の 収集その他の医療機器の 安全使用を目的とした改 善のための方策の実施状 況 | 臨床工学部 |

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び
紹介患者に対する医療提供の実績

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

| | |
|-------------|------------------------------|
| 閲覧責任者氏名 | 病院長 石河 修 |
| 閲覧担当者氏名 | 事務部長兼庶務課長 川上 悟、情報システム課長 柚原 功 |
| 閲覧の求めに応じる場所 | 病院会議室 |

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

| | | |
|-----------|--------|------|
| 前年度の総閲覧件数 | 延 | 0件 |
| 閲覧者別 | 医師 | 延 0件 |
| | 歯科医師 | 延 0件 |
| | 国 | 延 0件 |
| | 地方公共団体 | 延 0件 |

○ 紹介患者に対する医療提供の実績

| | | | |
|------|------------------------|---------|------------------------|
| 紹介率 | 87.1 % | 算定期間 | 平成23年4月1日 ~ 平成24年3月31日 |
| 算出根拠 | A: 紹介患者の数 | 22,790人 | |
| | B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数 | 21,367人 | |
| | C: 救急用自動車によって搬入された患者の数 | 759人 | |
| | D: 初診の患者の数 | 30,188人 | |

(注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項各号に掲げる体制の確保の状況

| | |
|--|--------|
| ① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 | 有 ・ 無 |
| <p>指針の主な内容：</p> <p>平成16年12月に改正した「大阪市立大学医学部附属病院医療安全管理規程」において、医療安全管理に関する体制確保及び推進を図るために必要な事項を定めている。また、「大阪市立大学医学部附属病院安全管理に関する指針」において、患者の安全を確保し、高度で良質な医療を提供するために、本院における医療安全管理の体制の確保及び推進を図るために準拠すべき基本的事項を以下のとおり定めた。</p> <ul style="list-style-type: none">○組織及び体制○院内報告制度○医療安全管理に関する教育・研修○医療事故発生時の対応○事故の公表○医療事故の調査と事故防止対策○医療安全相談窓口 | |
| ② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況 | 年 12 回 |
| <p>活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">○院内の医療安全管理および感染対策の検討及び推進に関すること○医療安全管理および感染対策の情報に関すること○医療事故の調査、審議及び改善策の検討に関すること○院内感染多発時の調査及び改善策の検討に関すること○その他、医療安全管理に関すること | |
| ③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 | 年 27 回 |
| <p>研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">○教職員を対象とした講演会等の実施（6回）○部署別事例研修の開催（1回）○新規採用の医師、看護師及び研修医に対し、医療安全管理のための組織体制や報告制度などの基本的な概念の研修会を開催（13回）○医療従事者対象の診療用機器取扱いに関する講習会の開催（4回）○厚生労働省推薦教材DVD研修（2回）○全従業者を対象としたAED講習会の開催（1回） | |
| ④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況 | |
| <p>医療機関内における事故報告等の整備 (有 ・ 無)</p> <p>その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>病院の各部門は医療情報端末がオンラインで結ばれており、事故発生時には個々の端末からインシデントレポート及びアクシデントレポートを入力し報告を行うこととしている。報告されたレポートについては、定期的リスクマネージャー等によるレポート検討会を開催し、内容点検、原因分析、改善策の検討を行っており、必要に応じて各部門あてに詳細な調査や報告書を求めるとともに、改善の指示や情報提供、リスクマネージャー会議などで事例報告を行っている。</p> <p>また、特定の傾向が見られる事例については、個別の部会やワーキンググループを設けるなどして専門的な立場から事故防止対策の検討を行っている。</p> <p>などして専門的な立場から事故防止対策の検討を行っている。</p> <p>一方、医療従事者については、安対マンスリーにより本院の状況、医療機能評価機構医療事故情報収集等事業の医療安全情報などを周知し注意喚起している。</p> <p>事故情報収集等事業の医療安全情報などを周知し注意喚起している。</p> | |

| | |
|---|---------------|
| ⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況 | 有 (3 名) ・ 無 |
| ⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 | 有 (5 名) ・ 無 |
| ⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況 | 有 ・ 無 |
| <p>所属職員： 専任 (10) 名 兼任 (8) 名</p> <p>医療に係る安全管理を行う部門として、副院長を部長・統括安全管理者とする医療安全管理部を設け、専任医師1名、専任安全管理者2名（看護師、薬剤師各1名）を中心として、各部署より選出されたリスクマネージャー83名並びに部長を補佐する部長代理2名、顧問5名を配置している。</p> <p>また医療安全管理部には、専任の感染管理者5名（看護師2名、医師1名、薬剤師1名、臨床検査技師1名）を配置している。</p> <p>活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ○医療安全管理の方針を定め、各部門への周知徹底を図るため、医療安全協議会等の会議を定期的に行い、医療安全管理の推進を図る。 ○医療安全管理・感染対策に関する講演会や講習会を開催し、病院全体に共通するテーマの職員研修を定期的に行うことにより、医療スタッフの安全・感染に関する意識の高揚を図る。 ○医療安全管理部に送信されたインシデントレポートについて、定期的にはリスクマネージャー等によるレポート検討会を開催し、事故防止対策の検討を行う。また検討会の分析結果は安対マンスリーに掲載し職員全員に周知する。 ○様々な課題について、医療安全管理部内にテーマに沿った部会やワーキンググループを設置し、専門的な立場から問題解決を図る。 ○院内の感染に関する予防と処置を行う。 ○院内感染が発生した場合、原因を分析し、対策を講じ周知徹底を図り、実施後、検証し見直しを行う。 | |
| ⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に対応される体制の確保状況 | 有 ・ 無 |

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

| | |
|---|--------|
| ① 院内感染対策のための指針の策定状況 | 有 ・ 無 |
| <p>指針の主な内容：</p> <p>「大阪市立大学医学部附属病院院内感染防止対策規程」において、感染症の予防及び感染症の患者に対する必要な措置を定めるとともに、「大阪市立大学医学部附属病院院内感染防止対策指針」で感染対策の推進を行うための基本的事項を次のとおり定めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症の分類等 ・ 組織及び体制 ・ 感染対策に関する教育・研修 ・ 感染発生の報告 ・ 感染発生時の対応 ・ 感染の調査とその対策 ・ 指針の閲覧 | |
| ② 院内感染のための委員会の開催状況 | 年 12 回 |
| <p>活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 院内の感染に関する予防と処置に関すること ・ 院内感染防止対策のための指針の策定及び改正 ・ 院内感染が発生した場合、原因を分析し、対策を講じ周知徹底を図る。実施後、検証し見直しを行う。 | |
| ③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況 | 年 55 回 |
| <p>研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新規採用者に対する研修 ・ 全教職員を対象とした講演会の実施 ・ 医師、看護師、医療技術職員等、外来ボランティア、ナースエイド、清掃・洗濯委託業者を対象とした研修 ・ 感染対策マネージャー研修 ・ DVD研修 | |
| ④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況 | |
| <p>病院における発生状況の報告等の整備 (有 ・ 無)</p> <p>その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病棟・外来で感染症を診断した時には必要な感染対策を実施するとともに、一類～五類感染症のすべて及び院内感染を引き起こす可能性のある感染症については報告を行う。届出が必要な感染症の場合は、大阪市保健所（大阪府知事・大阪市長）及び医療安全協議会長宛届出用紙を提出する。 ・ 専任感染管理者は必要な部門（病院長、医療安全協議会など）へ報告する。 ・ 医療安全協議会にICTを置き、ICTでは次の任務を行う。 ・ 感染情報の解析と管理 ・ 院内感染症のサーベイランス <ul style="list-style-type: none"> ・ 耐性菌等の「院内感染サーベイランス報告書」集計 ・ アウトブレイク時の調査・分析・対策・報告 ・ 抗菌薬・消毒薬の適正使用に関する指導 ・ 診療現場の現状把握と感染防止に関する指導 ・ 従業者への感染防止対策に関する教育と啓発 ・ 感染対策マニュアル及び感染対策ガイドラインの作成・改訂 ・ 職業感染防止対策の実施 ・ ファシリティーマネジメント（施設管理）への関与 | |

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|--|--------|
| ① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況等 | 有 ・ 無 |
| ② 従事者に対する医療薬品の安全使用のための研修の実施状況 | 年 19 回 |
| <p>研修の主な内容：</p> <p>①新規採用者研修（医薬品安全使用について：外観の似た薬剤、名前の似た薬剤、医薬品管理の注意点、安全性に関する情報の提供方法について等）</p> <p>②医薬品安全使用に関する研修会（麻薬の安全管理について：麻薬事故、持参薬麻薬について等）</p> <p>③臨床研修医、卒後研修（処方せんの書き方：内服・注射薬・抗がん剤レジメンオーダー方法、注意事項について）</p> <p>④新規採用看護師研修（静脈注射時の注意点、ハイリスク薬、名前の似た薬剤等）</p> <p>⑤麻薬の安全使用について（麻薬・覚醒剤取締り法、麻薬取り扱い方法、事故事例、事故防止について等）</p> <p>⑥麻薬の運用方法について（運用方法変更に伴う講習）</p> | |
| ③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 | |
| <p>手順書の作成 （有 ・ 無）</p> <p>業務の主な内容：</p> <p>①薬品の保管・管理状況確認（麻薬・毒薬の施錠、麻薬金庫内の保管状況、医薬用外劇物の保管状況、冷所・遮光保存薬の保管状況、先入れ先出し、使用期限）</p> <p>②注射薬の保管状況（筋弛緩薬の運用・出納簿記載確認、第一種・第二種向精神薬の施錠、特定生物由来製品の管理状況）</p> <p>③ハイリスク薬の管理状況、出納簿の記載確認</p> <p>④救急カート内医薬品の使用期限、定数の過不足</p> <p>⑤内服・外用薬の在庫状況</p> <p>⑥デッドストックの有無</p> | |
| ④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施 | |
| <p>医薬品に係る情報の収集の整備 （有 ・ 無）</p> <p>その他の改善のための主な内容</p> <p>①「麻薬控簿」、「麻薬管理シート」を廃止し、薬剤部で「麻薬施用せん」を発行、使用することにより、病棟での誤記入が無くなった。</p> <p>②用法間違いの多いラキソベロン液について、オーダー時に正しい用法が入力できるよう、オーダー名称を明確にした。</p> <p>③薬剤師による抗がん剤の調製は、レジメン登録された治療法に限定しているが、治療開始に猶予がなく、レジメン未登録の抗がん剤の場合、「抗がん剤治療計画書」を運用することで薬剤師が抗がん剤の事前チェックと調製を行い、抗がん剤化学療法の実用性が図れた。</p> <p>④休日の抗がん剤調製は病棟で医師が調製を行っていたが、薬剤師が調製することで安全キャビネットを用いるため、調製者の被曝や環境汚染を防ぐことができた。</p> <p>⑤レミナロン注射用によるアクシデント発生に対して、「末梢投与時は濃度に注意」のコメントが入り、このコメントは処方せん、注射薬確認用/返却せん、薬剤に貼付するラベル、看護師が使用する電子カルテの指示表に表示することで、誤使用を予防した。</p> <p>⑥薬剤部注射薬室の医薬品棚に薬剤のバーコードを貼付し、返却時、薬剤に付いているバーコードと棚のバーコードを照合することで、返却間違いを防止できた。</p> <p>⑦医薬品安全管理責任者を補佐することを目的に、「医薬品安全管理マネージャー」を新たに配置することで、「医薬品安全管理マネージャー」は、「専任安全管理者」、「医療機器安全管理マネージャー」と定期的に会議を開催し、連絡を取り合い医療安全に関する情報を共有できた。</p> | |

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|---|--------|
| ① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況 | 有 ・ 無 |
| ② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 | 年 6回以上 |
| <p>・ 研修の主な内容： 人工心肺装置・補助循環装置・人工呼吸器・血液浄化装置・診療用高エネルギー放射線発生装置・診療用放射線照射装置・シリンジポンプ・輸液ポンプについて使用者に対する定期研修を実施した。また、新機種に更新された除細動装置・生体情報モニター等についても使用者に対して新規導入時の研修を実施した。</p> | |
| ③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 | |
| <p>・ 計画の作成 (有 ・ 無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容： 人工心肺装置・補助循環装置・人工呼吸器・血液浄化装置、除細動装置・閉鎖式保育器・診療用高エネルギー放射線発生装置・診療用放射線照射装置・その他(10品目以上)の医療機器について保守点検計画を策定し、保守点検マニュアルに基づいた保守点検を実施した。</p> | |
| ④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | |
| <p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有 ・ 無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 厚生労働省やPMDA等から配信される医療機器不具合情報を随時収集し、院内に周知すべき内容については、医療機器安全性情報及び院内Web等での情報配信を行った。 2. 製造メーカー等から提供される回収(改修)情報に対して、臨床工学部で一括した情報収集を行い、これらの情報を関連部署に提供した。 3. 院内で発生した医療機器に関するインシデント報告について、医療安全管理部から情報を受け、再発防止のための対応策について関連部署を含め協議した。また、院内に周知すべき重要性の高い内容については、医療機器安全使用研修会等を開催し、院内周知に努めた。 4. MEセンターで中央管理されている汎用性の高い医療機器については、更新計画を策定し、医療機器委員会を通じて計画的な更新と機種統一化を進めた。 5. 新規に購入される医療機器の添付文書をMEセンターで保管することとした。 | |